公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成27年2月1日発行（毎月1回1日発行） 通巻549号

# ハンドボール

特集

## 第66回 全日本総合選手権大会

## 男子第57回 女子第50回 全日本学生選手権大会

## 第4回 アジアビーチゲームズ

JAN. FEB. 2015 No.549

［表紙写真］全日本総合選手権女子優勝のオムロン・東濱裕子選手（左）、男子優勝の大崎電気・信太弘樹選手（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

代表取締役　青木 理恵

**販売から賃貸管理までトータルサポート**

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方の将来設計において、不動産を用いた資産づくり・将来的な安定収入を得ていただくご提案をさせていただいております。

YURIKA ROSE

創業以来、多くのお客様に支えられ今日に至りました。
心より感謝申し上げます。
皆様方の強いご要望を頂きまして、
2014年10月から自社ブランド『 YURIKA ROSE 』
( ユリカ ロゼ ) シリーズをスタート致しました！
第一弾の『 YURIKA　ROSE　飛鳥山公園 』は既に完売致しました。ありがとうございます。
第二弾の販売を乞うご期待！！

http://yurika-co.jp/

**株式会社ユリカコーポレーション**

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202
TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188

# 総力をあげた、実行の年

公益財団法人 日本ハンドボール協会 専務理事 **川上 憲太**

皆様、明けましておめでとうございます。昨年は、日本ハンドボール協会の各事業に対し、ご支援、ご協力を賜りまして深く御礼申し上げます。本年も引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

いよいよ 2015 年となりました。今年は 3 月の女子アジア選手権大会（2015 世界選手権予選）に始まり、7 月にユニバシアード大会（於：韓国）、そして東京オリンピックの有望選手で初めて出場する男子ジュニア世界選手権大会（於：ブラジル）、続いて 8 月は男子ユース世界選手権大会と期待を担う大会があります。

さらに 10 月（女子）、11 月（男子）に日本ハンドボール界悲願のオリンピック出場をかけたリオデジャネイロ・オリンピックアジア予選が行われ、12 月には女子世界選手権大会があります（於：デンマーク）。加えて世界のトップグループ入りを狙っている女子ジュニア、そしてユースのアジア選手権（世界選手権予選）も行われます。

日本ハンドボール界としては、すべての大会に総力をあげて戦わなければなりません。それが 2019 年の女子世界選手権大会、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックでの日本選手の大活躍と両大会での「メダル獲得」という大目標につながることだと確信しています。全国の指導者をはじめ関係者の皆様の常日頃からのご尽力に感謝申し上げますと共に、さらなるご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

昨年は日本代表においては、女子がアジア競技大会銀メダルとリオ五輪出場に可能性を感じさせましたが、男子はアジア選手権、アジア競技大会いずれも 9 位と厳しい結果でありました。アジアにおける真の実力は果たしてどの位なのか、結果を真摯に受け止めた分析・対策と実力を十二分に発揮させる指導者の存在が必要と痛感しています。このため、リオ五輪アジア予選に向かっての男子代表監督を決め、改めてのスタートを切ることになります。新監督、スタッフに皆様の絶大なるご支援を宜しくお願いします。

皆様ご承知の通り、男女ともジュニア、ユースには優秀な存在が台頭してきています。「いかに鍛えていくか」が最大の問題です。「東京五輪強化指定選手」としてしっかり強化していかなければなりません。日本協会は全国に数少ないトップ指導者全員を強化スタッフと考え、強化本部の中の強化委員会のリーダーシップのもと強化体制（システム）を整え、各々の役割分担を明確にし、トップ強化に邁進していく所存であります。

今年から 2020 年オリンピック・パラリンピックに向けた国・都・組織委員会等の大きな動きが本格化して来ることと思います。日本協会としても「ハンドボール競技の運営責任」と「ハンドボール競技の発展につながる大会推進」に対する具体的協議に入っていくことになります。同時に JOC による 2020 年に対する「強化活動の推進」が具体化してまいります。また、2019 年女子世界選手権の日本（熊本）開催もこれと同時に、また同様に推進していかなければなりません。9 月（予定）には法人化した組織委員会を立ち上げ、いよいよ本格始動となります。両大会とも IHF の指導の下、具体的な準備にとりかかることとなります。

両大会での日本の目標は「メダル獲得」です。目標に向けた計画、マイルストーンを指標に確実にステップアップしていくべく全力で取り組んでまいります。

2019、2020 年両大会の強化計画に対する強化資金ですが、国からの強化予算は以前よりは増額となると考えますが、計画を満たすものではないと思われます。そこで皆様には今後多大なるご支援、ご協力をお願いすることになると思いますが、宜しくご理解、ご協力をお願い申し上げます。

新しい年を迎え、皆様とともに全員の力で大きな目標に向かって一つ一つの課題を解決し、実行してまいりたいと思いますので、今年も宜しくお願い申し上げます。

# 平成26年度
# 第66回全日本総合ハンドボール選手権大会

開催期日：平成26年12月24日（水）～28日（日）
会　　場：枇杷島スポーツセンター、愛知県体育館

## 大会を終えて

愛知県ハンドボール協会理事長　矢野 哲二

「第66回全日本総合ハンドボール選手大会」は12月24日（水）～12月28日（日）まで愛知県体育館・枇杷島スポーツセンターで開催し無事終了することができました。ご支援、ご協賛いただきました関係団体、関係各社、報道各社、また会場に足を運んでいただきましたファンの皆様に感謝を申し上げます。

「全日本総合ハンドボール選手権大会」は次回より「全日本ハンドボール選手権」と名称を変更し愛知県開催になります。チーム数は男子24、女子20となり試合数も42試合になります。最後の全日本総合、最初の全日本選手権を愛知県で開催できることは大変光栄なことと存じます。

試合は女子準々決勝では大阪体育大学の健闘もありましたが準決勝は男子･女子ともリーグ勢の4チームになりました。男子準決勝は最後まで勝敗のわからない大変興奮した試合になりました。大同特殊鋼×琉球コラソンは延長戦に入ると思われた残り2秒に大同特殊鋼が得点を挙げ劇的勝利。続く大崎電気×トヨタ車体もトヨタ車体が後半4点差でリードするも後半20分に同点となり一進一退の攻防の末、ラスト1秒に大崎電気が決勝進出を決めました。女子はそれぞれ熱戦の末、オムロン、北國銀行が決勝進出を決めました。決勝戦は男女とも昨年と同じ組合せとなり、オムロン × 北國銀行は緊迫した試合展開の末、延長戦の結果オムロンが2点差をつけ4年連続17回目の優勝。大崎電気×大同特殊鋼は安定し試合運びをした大崎電気が2年連続12回目の優勝を飾りました。

大会運営については、昨年同様2会場での開催となり、会場の狭さから各会場とも選手の皆様にはアップ会場・更衣室にご不便をおかけし申し訳なく思います。特に愛知県体育館は耐震工事によりアップ会場が使用できず試合間の時間を昨年より20分長く設定をしました。観客からは間延びした感じではなかったでしょうか。競技運営は昨年の経験によりスムーズに流れたと思います。メンバー票からの記録用紙の作成・結果記録の処理、速報・入場者への案内表示・報道機関への対応・競技役員の確保等です。

反省点では集客です。最終日は応援席数の調整、優待券の発行など効果をあげましたが、全体では前売り券を含め昨年を下回りました。大会告知方法、集客増の取り組み企画等、見直しの必要性を感じさせる大会でした。他にも反省する点は多くあると思いますがご指摘いただければ幸いに思います。

今大会の経験と反省を生かし次回「全日本ハンドボール選手権大会」に向け一層の努力を心掛けていきたいと考えております。これからの皆様のご協力、ご支援をお願いし大会総評とさせて頂きます。

## 大崎電気は２年連続１２回目の優勝！

### 最終順位

■男子

優　勝
　大崎電気

準優勝
　大同特殊鋼

３　位
　琉球コラソン
　トヨタ車体

■女子

優　勝
　オムロン

準優勝
　北國銀行

３　位
　ソニーセミコンダクタ
　広島メイプルレッズ

■男子

最優秀選手賞
　信太弘樹（大崎電気）

最優秀監督賞
　岩本真典（大崎電気）

■女子

最優秀選手賞
　東濱裕子（オムロン）

最優秀監督賞
　黄　慶泳（オムロン）

## オムロンは４年連続１７回目の優勝！

# 男子優勝　大崎電気

## 大崎電気ハンドボール部監督　岩本 真典

はじめに、第66回全日本総合ハンドボール選手権大会を開催するにあたりご尽力いただいた愛知県ハンドボール協会、（公財）日本ハンドボール協会、ならびに関係各位の皆様に改めて心より厚く感謝、御礼申し上げます。

この度、私たち大崎電気は第66回全日本総合ハンドボール選手権大会において2年連続12回目の優勝を果たすことが出来ました。これも一重に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡邉オーナーをはじめ社員の皆様、そして多くのファンの方々や大崎電気ハンドボール部関係各位の皆様の力あってこその結果だと思っております。この場を借りて感謝申し上げます。

そして何より優勝という文字に飢え、日々のトレーニングにおいて切磋琢磨し選手間での競争を闘い抜いた19名の選手の努力の賜物だと思っています。

選手には日頃からFor THE TEAM! THINKING HANDBALL!というチームスローガンの基、指導しております。

今大会は18名大会登録（16名ベンチ登録）しか出来ず、大会が始まれば怪我をしても選手の入れ替えが2名しか出来ないという中、決勝戦までの3試合、試合に出場している選手は勿論ですがベンチ登録を外れた3名の選手もチームの為に最善を尽くし、選手19名がひとつになって大きな力を発揮し、役割を果たしてくれたことに感謝しております。

しかしこれを継続しなければ意味がないと思っています。

今大会は大崎電気として二年連続の優勝でしたが、今期の最終目標である次のタイトルに向けて、更なるステップアップを目指し、これまで以上の努力を重ねて19名の選手、誰が出場してもチーム力が落ちないチームを目指し、国内で継続して勝てるチーム、そして世界に通用するチームを目指して日々、精進していきます。

今後ともご支援、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

そして大崎電気ハンドボール部をこれからも宜しくお願い致します。

# 女子優勝　オムロン

## オムロンハンドボール部ヘッドコーチ　黄　慶泳

第66回全日本総合選手権大会で4年連続17回目の優勝ができて本当に心から喜んでおります。今シーズン苦しい戦いが続く中での優勝だったので、チームにとって特別な喜びがあるのは間違いありません。

そこで優勝の原動力となったのはやはり試合会場で熱い声援を送って下さった皆様方の力があり、会社も含めて様々な角度から沢山のサポート、ご支援があったからだと思います。

各関係者の皆様方には改めて心から厚くお礼申し上げます。

今大会の準備につきましては、日本リーグ最中での試合でしたので、コンディショニングが非常に難しい部分もありました。しかし、あえて疲労を蓄積しながらもスタミナ強化を継続して、県内の男子高校性とトレーニングを積み重ねながら競り合いの強さを強化してきたのが結果として良かったと思います。

特に決勝戦は延長戦までもつれ込みながら足が動かない選手も見られる中で、最後まで素晴らしいチームワークと諦めない戦いを見せてくれたのは、そのトレーニングの成果が表れていたと感じます。快く合同練習を引き受けてくれた県内の男子高校のチームの皆様には改めて感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

大会の結果につきましては、優勝の喜びを再び味わえたことはとても嬉しいですが、何よりも嬉しいというかほっとしている部分は選手たちの努力と汗の量が結果として報われたことです。いつも以上にチームを勝たせたくて優勝が欲しかった大会でした。

最後になりますが、大会の開催、運営にご尽力頂きました関係者の皆様方には改めて御礼申し上げまして優勝のご報告と致します。本当にありがとうございました。

## キャプテン　藤井 紫緒

12月24日から28日まで愛知県で全日本総合選手権大会が行われました。初戦は、香川銀行との対戦、初戦で硬さは見られたものの、オムロンの持ち味であるディフェンスから速攻で得点を重ね、30対6で勝利しました。続く準決勝はソニーセミコンダクタとの対戦、前半はディフェンスから速攻が機能し良い流れを掴みました。後半に入り点が取れない時間帯が続きましたが、試合の中で修正し、21対16で決勝に駒を進めました。決勝は昨年同様北國銀行との対戦、社会人選手権大会、国体と敗戦し、その雪辱を晴らすため挑みました。前半ディフェンスが機能しオムロンの強さが出たものの、オフェンスでなかなか点数が取れず10対8と2点リードで折り返し、後半に入り退場者が続き2点リードはすぐに追いつかれ、途中17対19と2点差に広げられる場面もありましたが、タイムアップ直前で同点に追いつき21対21で延長戦へ。延長では、ディフェンスを立て直し、そこからしっかりと得点に結びつけ25対23で4年連続17回目の優勝を飾ることが出来ました。

今大会に向け、スタミナ強化を行いながら、男子高校生の力を借り、強い当たりが出来るパワーを強化してきました。そのおかげもあり、苦しい時間帯の時に踏ん張ることができ、延長戦でもスタートと変わりなく戦うことが出来ました。

また、最後まで諦めず戦えたのも、会社の皆様のサポート、応援してくださる皆様のおかげだと思っております。本当にたくさんの方々に支えられて得た優勝だと、皆様には本当に感謝しております。

今後の日本リーグに向け良い弾みになりましたが、この勝利に甘んじることなくもう一度足元を見直し、日本リーグ1位通過、プレーオフ優勝を目指し更に精進して参りますので、今後とも、ご声援の程、宜しくお願い致します。

最後になりましたが、今大会にあたりご尽力頂いた協会関係者の方々、応援頂いた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 戦 評

## 男 子

■準決勝

### 大崎電気 34 (16-17, 18-16) 33 トヨタ車体

大崎電気のスローオフで試合がスタート。大崎電気が6番豊田のサイドシュート、24番信太のステップシュートで2点先行するも、トヨタ車体も3番石戸、4番熊谷の得点などで応戦。準決勝にふさわしい1点を争う好ゲームとなる。抜け出したい大崎電気であったがトヨタ車体21番甲斐のファインセーブに阻まれ、なかなかリードを広げることができない。追いつきたいトヨタ車体は18番崎前の得点で同点、前半14分には20番渡部の得点でとうとう逆転に成功する。トヨタ車体はこの勢いのままにリードを広げ、22分には15対10とし、この試合最大の5点差をつける。このままトヨタ車体のペースのまま試合が進むと思われたが、大崎電気は7番宮﨑を中心に攻撃を組み立て徐々に追い上げを見せる。前半終了間際に大崎電気3番小澤のサイドシュートが決まり、17対16と1点差まで追い上げ前半を終了する。

後半開始早々に大崎電気25番元木の速攻が決まり、17対17の同点となる。しかし、後半3分過ぎ、24番信太、6番豊田が続けて退場。トヨタ車体は相手2人の退場をきっかけに数的優位をうまく攻め、3番石戸の得点などで22対18とし、4点差までリードを広げる。流れを変えたい大崎電気はディフェンス時に11番馬場を投入、トヨタ車体のパスワークを乱しにかかる。この後、大崎電気は徐々に追い上げを見せ、24番信太の得点で27対27の同点に追いつく。対するトヨタ車体も3番石戸の連続得点などでリードは譲らない。一進一退の攻防が続いたが、後半26分大崎電気がとうとう逆転に成功。しかし、トヨタ車体もすぐさま追いつく。そして、ラスト16秒、33対33の同点の場面で大崎電気がタイムアウト。最後に7人攻撃で得点を狙う。延長戦かと思われたラスト1秒、大崎電気17番植垣の得点が決まり、大崎電気が決勝進出を決めた。

### 大同特殊鋼 22 (7-9, 15-12) 21 琉球コラソン

琉球コラソンのスローオフで試合開始。先制点は琉球コラソンの15番松信が挙げるが、大同特殊鋼の4番藤江が3連取、11番平子のサイドシュートが決まり、前半10分までに大同特殊鋼は3点差を付け、試合の流れを掴む。しかし、直後に大同特殊鋼は退場者を出し、琉球コラソンに試合の流れを渡してしまう。琉球コラソンは23番水野の得点を皮切りに5連取し、前半16分に逆転に成功。大同特殊鋼はたまらずタイムアウトを取り、その後は両者一進一退の攻防が繰り広げられ、前半を9対7で琉球コラソン2点リードで終える。

大同特殊鋼は後半始まってすぐに6番加藤、22番高の得点で同点に追いつく。そこからは両者、緊張感のある攻防が続き、後半24分まで同点。琉球コラソンは後半25分に退場者を出してしまい、そこから大同特殊鋼の3番野村、7番地引の得点で2点リードする。負けじと琉球コラソンは、1番棚原、終了間際に33番東長濱の得点により、同点に追いつく。会場の誰もが延長戦に入ると思ったが、残り2秒に大同特殊鋼の14番千々波が得点を挙げ、22対21で大同特殊鋼の劇的勝利。大同特殊鋼は決勝に駒を進める。

■決勝

### 大崎電気 36 (13-7, 23-14) 21 大同特殊鋼

決勝戦は、準決勝で劇的勝利を収め勢いに乗る地元・大同特殊鋼と、同じく準決勝で車体との激戦を制し連覇を狙う王者・大崎電気と前回大会決勝と同一カードとなった。大崎電気のスローオフで試合開始。大同特殊鋼は4番藤江のサイドシュートで先制するも、大崎電気6番豊田のミドルシュートですぐに取り返し、両者堅い守りで引き締まった立ち上がりとなる。試合が動いたのは14分、大同特殊鋼の退場の際に大崎電気24番信太、3番小澤の得点で一歩抜け出す。更に16分、大崎電気7番宮﨑投入で突き放しにかかる。大同特殊鋼も若き司令塔4番藤江が果敢に切り込むも、大崎電気のDFをなかなか崩すことができない。3点差がついたところでたまらずタイムアウトをとるも、リズムを変えることができず13対7と大崎電気が6点リードで前半終了。

後半巻き返したい大同特殊鋼だが、スカイプレーを大崎電気6番豊田に読まれ、逆に勢いに乗ったのは大崎電気。18番石川、25番元木、9番森がコートを駆け回り、得点を量産し、点差を突き放す。流れを変えたい大同特殊鋼も8番久保を投入し、4番藤江とのカットインプレーで応戦するも、要所のミドル・ロングシュートは相手GK12番木村に阻まれ、攻撃が機能せず、大崎電気の速攻を浴びてしまう。末松監督は選手を鼓舞し、地元開催での意地を見せるが、最後まで攻撃の勢いを緩めず、若手とベテランがしっかりかみ合い、安定した試合運びをした大崎電気が36対21と点差をつけ、2年連続の日本一に輝いた。

# 戦評

## 女子

■準決勝

### 北國銀行 22(11-11, 11-7)18 広島メイプルレッズ

北國銀行のスローオフで試合がスタート。広島メイプルレッズが7番宋のステップシュートで先制するも、先に流れを掴んだのは北國銀行。14番河田、9番横嶋（か）の得点を皮切りに4連取、試合序盤に4対1と3点リード。ここでメイプルレッズはたまらずタイムアウト。その後メイプルレッズは2番増田のロングシュート、9番門谷のサイドシュートで得点を重ねるも、北國銀行もクイックスタートからの速い展開で得点を重ね、なかなか点差が詰まらない。しかし、メイプルレッズGK1番毛利のファインセーブが目立ち始め、前半20分同点に追いつく。その後は一進一退の展開が続き、11対11の同点で前半を折り返す。

後半もお互い譲らない展開が続く。後半先に流れを掴んだのはメイプルレッズ。19番村松の得点で14対13とし、この日久々のリードを奪う。そして、後半11分メイプルレッズが16対14と2点リードしたところで北國銀行がタイムアウト。ここから北國銀行が徐々に流れを押し戻し、後半17分13番横嶋（彩）のパスカットからの速攻で同点に追いつく。その後、北國銀行は9番横嶋（か）、13番横嶋（彩）を中心に得点を重ね、最終スコア22対18で決勝進出を決めた。

### オムロン 21(11-7, 10-9)16 ソニーセミコンダクタ

オムロンのスローオフで試合が始まり、いきなり17番東濱、7番藤井のロングシュートで2点を連取。その後も2人を中心にソニーのゴールへ迫る。対するソニーもコートをワイドに使い、サイド、ポストへの巧みなパスさばきで応戦し、喰らいつく。序盤から両チームの猛攻をどちらも積極的なDFで封じていたが、

それを確実に速攻につなげて得点を重ねたオムロンが、11対7でリードし前半を終える。

後半に入り、前半に引き続きソニーはワイドにコートを使い、両サイドシュートで得点を重ね、じわじわとオムロンを追い詰める。後半11分、ソニーがついに同点に追いつく。しかし後半14分、ここまでソニーのオフェンスを引っ張ってきた15番安倍が3回目の退場で痛恨の失格。これで勢いを取り戻したオムロンは怒涛の5連続得点。そのままオムロンが逃げ切り、21対16で決勝へとコマを進めた。

■決勝

### オムロン 25(10-8, 11-13, 2-0, 2-2)23 北國銀行

前回大会決勝と同じ組み合わせの女子決勝。全日本総合4連覇がかかるオムロンと、今シーズン好調で第45回大会ぶりの優勝を狙う北國銀行との決勝戦。北國銀行のスローオフで試合開始。先制点を奪ったのは北國銀行3番鰍場のサイドシュート。オムロンも早いパス回しから7番藤井、17番東濱のロングシュートで反撃をする。対する北國銀行も4番角南（唯）、17番八十島の得点で応戦。前半15分を経過してDFが機能し始め、お互いにミスが目立つ展開に。北國銀行の退場をきっかけにオムロンが数的優位をいかしサイドシュート、ポストシュートで連取、前半25分10対7とオムロンがリードする。前半残り5分北國銀行は3番鰍場のサイドシュートで2点差に詰め寄る。オムロンがたまらずタイムアウトを請求するが、ねばる北國銀行DFの前に点を奪うことができない。勢いそのままに攻める北國銀行は7mTを獲得するが、このチャンスをオムロン1番藤間に阻まれタイムアップ。10対8のオムロンリードで前半を終了した。

後半開始早々にオムロンが連続退場、チャンスを逃さず北國銀行が同点に追いつく。ここでオムロンがタイムアウト。両チーム互角の展開になり後半20分17対17の同点に。緊迫した展開を先に抜け出したのは北國銀行、9番横嶋（か）、13番横嶋（彩）の得点で19対17とリードするが、オムロンも17番東濱、5番稲葉の連続得点ですぐさま追いつき21対21で延長へ。

北國銀行は9番横嶋（か）、14番河田で得点を重ねる。しかしオムロン1番藤間の連続セーブ、13番勝連、7番藤井のシュートが決まりタイムアップ。オムロンは4連覇達成。両チームの意地がぶつかり合った、決勝にふさわしい戦いであった

# 全日本総合から全日本選手権へ

第 66 回全日本総合選手権大会は、現在の各カテゴリー大会のトップチームが出場権を得る大会としては最後の大会となる。男子は、日本リーグチーム9、大学チーム4、地域チーム3の16 チームの参加で、女子は、日本リーグチーム7、大学チーム3、地域チーム2チームの合計 12 チームの参加で行われた。

この大会は、昭和 24（1949）年に第１回大会が開催されている。男子 14 チーム、女子３チームで、その内訳はそれぞれ男子が７チームが大学系、７チームが地域系、女子は地域系のチームが２チーム、大学系が１チームの参加となっている。実業団系のチームが登場するのは第 10 回あたりからである。それまで男子は大学系のチームが中心となって展開されている。女子は第４回大会が休会となっているが、それ以後は高校チームが中心で展開され、第７回で愛知紡績が優勝して以来、実業団系のチームが主導権を握っている。

大会時期は、昭和 45 年までは８月開催であった。昭和 46 年から 12 月開催となり、開催地は東京に固定された。50 回神戸大会から、地方でも開催されるようになっている。開催形式は、現在では、日本リーグチームに各カテゴリーの代表チームが挑戦するという構図になっている。

次回からの全日本選手権で大会方式は、「県予選からの勝ち上がり方式とするが、リーグ勢や実業団チームおよびクラブチームと実力が拮抗する大学生のトップチームの不出場を回避するため、初回は段階的措置として学連枠を２枠設ける。ただし、大会の趣旨を全うするため、早い段階で枠は撤廃する。」となっている。

この大会、サッカーの天皇杯が意識されていて、多くのチームがエントリー出来、真のカップ戦日本一を決定する大会となっている。現在、Ｊリーグ以外は、地域予選から勝ち上がって優勝が争われているが、以前は大学枠も設けられていた。来年度からは高校生のエントリーができなくなるとのことである。これはサッカー協会の育成年代強化策と関連していると見ている（読売新聞、2014.12.30）。ここでは、指導者養成と U-16 の国際大会開催が挙げられていることが特筆されるだろう。

今回最後の全日本総合会場で、幾人かの関係者に、来年の全日本選手権について意見を伺ったので報告する。

**愛知県協会関係者**：会場確保のため昨年（平成 25 年）から準備。今年の中部大学がインカレで優勝した件については、補欠チームを決めておく。

**大学関係者**：地域予選からのエントリーに関しては、出場する、たぶん出ないでしょう、インカレで優勝すれば出場が義務となるので出場する、出場しない、などまちまちの回答であった。それぞれの理由に関しては、学業との関連、モチベーションの問題が挙げられていた。

学業との関連においては、12 月が卒論の時期であることが大きい事となっている。卒論を経験した方なら理解できると思われるが、この時期に集中して仕上げる時期である。各大学４年生が練習にあまり参加できず、十分な準備をして参加することができない。またモチベーションの点から見れば、インカレで最高のパフォーマンスを出し切っており、この大会に掛けるモチベーションは落ちている。多くの大会を見て来た者としても良く理解できるところである。モチベーションが落ちているということは、選手の怪我にもつながり、選手の将来に危惧をもたらすのではないという意見もあった。

全日本総合選手権は、長い歴史をもち、日本のハンドボール競技の発展に寄与してきた。来年度から始められる全日本選手権は、これを受け継ぎ、益々のハンドボール競技発展の礎としなければならない。少ない意見ではあったが、これまでの開催方式にも改善点はあるように思われた。聖徳太子は「和をもって貴しとなす」と言い、明治維新では「万機公論ニ決スヘシ」と言っている。新しく生まれ変わる全日本選手権、これを機会に、多くの人の智恵を出し、大きく育て行くことが大切だと思われた。

高松宮記念杯男子第57回・女子第50回

# 平成26年度全日本学生ハンドボール選手権大会

## 最終順位

■男子

**優勝：中部大学**（東海）

準優勝：日本大学（関東）
３　位：早稲田大学（関東）・大阪体育大学（関西）

■女子

**優勝：大阪体育大学**（関西）

準優勝：大阪教育大学（関西）
３　位：東京女子体育大学（関東）・筑波大学（関東）

日時：平成 26 年 11 月 22 日（土）～ 26 日（水）
会場：岐阜メモリアルセンター、ヒマラヤアリーナ、各務原市総合体育館

## 個人表彰

| ■男子 | ■女子 |
|---|---|
| 〈優秀選手賞〉 | |
| 宮田　一輝（中部大２） | 大山　真奈（大体大６） |
| 岡元　竜生（中部大５） | 河嶋　英里（大体大７） |
| 福田　丈（中部大 19） | 佐々木　春乃（大体大８） |
| 小泉　佑輔（日本大３） | 馬場　敦子（大体大 12） |
| 原　健也（日本大 19） | 眞継　麻礼（大教大７） |
| 玉城　慶也（早稲田２） | 石井　優花（東女体５） |
| 柴山　裕貴博（大体大５） | 林　るうな（筑波大４） |
| 〈特別賞〉 | |
| 岡本　大亮（中部大 16） | 角南　果帆（大体大５） |
| 渡邉　昭洋（日本大１） | 板野　陽（大教大 12） |
| 〈優秀監督賞〉 | |
| 蒲生　晴明（中部大） | 楠本　繁生（大体大） |

## 総評

東海学生ハンドボール連盟理事長　**杉森 弘幸**

男子第 57 回・女子第 50 回 平成 26 年度全日本学生選手権大会（平成 26 年 11 月 22 日～ 26 日）が岐阜県岐阜市・各務原市にて初めて開催されました。今回女子が 50 回の記念大会のため、主管の東海学生ハンドボール連盟ならびに岐阜県ハンドボール協会は、選手の活躍を願い、記憶に残る大会に仕上げるべく準備を進めてまいりました。

開会式は、長良川国際会議場にて、前年度優勝・男子早稲田大学、女子大阪体育大学による優勝旗返還が行われ、続いて地元を代表して大同大学男子・中嶋洸平主将、中京大学女子・川下真由主将が選手宣誓を務めました。式典終了後の特別企画では、2014 年度ユース、ジュニア、U-22、世界学生の４種別に日本代表として出場した選手が紹介され、来年世界大会に臨む男子ユース・安倍竜之介選手（国士舘大）、男子ジュニア・田中圭選手（筑波大）が大会に向けて抱負を述べてくれました。

また、「スポーツマンのこころ～世界を見据えて～」と題して、岐阜経済大サッカー部監督でスポーツ哲学者の高橋正紀教授による講演が行われ、酒巻清治氏（トヨタ車体監督）が聞き手となり、熱弁が交わされました。海外での豊富な経験から、世界トップで活躍する選手の取り組みなど具体例が紹介されました。お二人の話は興味深く示唆に富む内容であったため、選手だけでなく多くの指導者からも好評でした。

締めに、2020 年東京オリンピックで活躍が期待される選手に向け、国際大会の動画・写真をまとめた映像が流されました。約７分間の映像に参加者は釘付けとなり、終わった後は大きな拍手が湧きおこり、本番を明日に控え、盛大のうちに会が閉じられました。

男子は 32 チーム、女子は記念大会のため、従来から８チーム増枠で 32 チームとした今大会は、序盤が３連休と重なり、立ち見の応援が出るなど多数の来場者で賑わいました。その影響もあってか、女子は初日から延長戦が３試合生じるなど、学生らしく溌剌とした好プレーを目の当たりにし、地元小・中学生も満足顔で会場を後にしていました。

特筆すべきは、男子の中部大学が初優勝を遂げたことです。2001 年富山インカレで大阪体育大学が優勝して以降、12 年連続で関東の大学が優勝を独占してきました。東海の大学としては、1995 年仙台インカレで名城大が初制覇して以来、実に 19 年ぶりの快挙であります。中部大学は、２回戦で日本体育大学を、３回戦で東海・秋リーグ優勝の大同大学を大接戦でものにし、準決勝で優勝候補の早稲田大学に逆転勝利し、その勢いに乗って、決勝の日本大学を 31 対 24 で退け優勝しました。地元東海学連が盛り上がる大会にもなりました。

男子２回戦の日大対中京大、東海大対法政大、大体大対関西大の３試合も延長戦となり、準々決勝の早大対名城大、中部大対大同大、日大対明治大、大体大対東海大など、どれも引き締まった好ゲームであり、印象に残りました。

女子は、大阪体育大学が２年連続３回目の優勝を遂げました。１回戦の早稲田大戦や準決勝の東京女子体育大戦の途中まで多少競り合ったものの、最後はどの相手も７点差以上で突き放し圧倒的な強さを示しました。優勝した大阪体育大学は、次の全日本総合選手権でどのような戦いをするのか、日本リーグ勢と十分対等に戦えるチームと映りました。また、準優勝した大阪教育大学は、１回戦で関東・秋リーグ優勝の東海大学との戦いをものにし、準々決勝で東海春・秋リーグ優勝の中京大を、準決勝で関東・春リーグ優勝の筑波大を撃破するなど、実力を存分に発揮したのではないかと思います。

男女とも今大会は、西日本地区の大学が優勝しましたが、このことも、インカレ史上初めての出来事となりました。2020 年東京オリンピックを控え、男女学生界がより活発化し、飛躍するべく契機となった大会であれば幸いです。

大会中、岐阜県柔道整復師協会・岐阜県アスレティックトレーナー部会のサポートで選手ならびに審判員のケアもしていただきました。開催にあたり多大なご支援・ご指導を賜りました（公財）日本協会・全日本学連・岐阜県協会・東海学連役員の皆様に感謝申し上げますとともに、運営委員長を務めた小川真純総委員長はじめ本部運営スタッフの献身的な働きのお蔭で大会を成功裡に終えることができました。このことに、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

# ［男子優勝］

# 中部大学

中部大学ハンドボール部顧問　蒲生 晴明

このたび第57回高松宮杯全日本学生ハンドボール選手権大会で初優勝をしました。中部大学開学50周年の記念の年に優勝できたことは、感慨深いものがあり、大変嬉しい初優勝であります。

中部大学ハンドボール部は1966年に諸先輩の努力の末に創部され、35年連続36回目のインカレ出場で初めて全国制覇を成し遂げることができました。この間には、故山崎先生や故宇榮原監督はじめ諸先輩、関係者の皆様方の大変な努力の積み重ねがあったことと思います。そして、大学の支援があったからこそクラブの存続強化が少しずつ着実に進みました。2000年からは、中部大学ハンドボール後援会が発足し、大学内外と保護者皆様方のご支援をいただけるようになり、充実した運営ができるようになって行きました。

本年は、2月に韓国での円光大学定期戦において、初めて「アウェイでの勝利」をしたことで、選手たちが自信を持てるようになりました。このアウェイでの勝利をきっかけに、チームとして個人としても徐々に成長して行きました。

その成果として、東海学生春季リーグにおいて大激戦の末32回目の優勝ができ、チームとして成長したことを感じられ、部員一同大変な自信となり嬉しそうでした。西日本インカレでも、勝負強い闘いで準優勝しました。しかし、優勝できなかったことが選手たちのモチベーションを高めていき、夏のトレーニングは、自主的積極的な言動が多々見られるようになって、大変良い傾向のトレーニングを積むことができました。東海学生秋季リーグでも、全勝対戦となった最終戦には破れ準優勝でしたが、この敗戦が部員たちのモチベーションを高めさせ勢い付かせました。インカレ前のトレーニングでは、選手たちの希望によって、過去にないほど数多くのトレーニングゲーム数をこなし、大変良いゲーム内容でした。

インカレ本番では、学生ハンドボール界の伝統校に胸を借りていくチャレンジャーの姿勢で臨んだ結果、勝ち切ることができ、毎試合ごとにチームが成長していきました。どのゲームも、選手たちの自主的な闘い方が戦略的にできたように思います。「よく見て、よく考えて、地道なトレーニング」を貫いた結果であって、選手のみならずマネージャーを含めて部員全員がヒーローです。

中部大学チームは、基本トレーニングをコツコツと積み上げて、全国制覇までたどり着きましたが、彼らにはまだまだ成長できる伸び代があります。今後も、驕ることなくトレーニングを地道に積んでいき、この中から世界で活躍できる選手、2020東京オリンピック代表選手が育って行って欲しいと期待しております。

［女子優勝］

# 大阪体育大学

大阪体育大学ハンドボール部主将　**大山 真奈**

はじめに、高松宮記念杯男子57回女子50回全日本学生選手権大会の開催にあたり、多大なるご支援、ご協力を戴きました東海学生ハンドボール連盟、岐阜県ハンドボール協会、日本ハンドボール協会の方々をはじめ、関係者の方々に心より感謝申し上げます。

今年は1年生が10名加わり、29名でチームが始動しました。今年は昨年に比べ下級生がコートに立つことが多く、最初は「このチームで本当に勝てるのかな」という不安な気持ちがありましたが、日々練習を重ね、1人ひとりの「日本一になりたい」という強い気持ちがチームを一つにし、その結果、優勝へと繋がったと思います。

個人的には4年連続で決勝の舞台を経験させていただき、優勝した時の喜びも負けた時の悔しさも味わってきました。

私たちだからこそ分かるあの悔しさを二度と味わうことのないように、また1点の重みということに対して追求し、練習に取り組んできました。

チームとしてはコミュニケーション力を課題とし、練習中はお互いに要求し指摘し合うということ意識して取り組みました。またそれぞれが自分の役割を理解し明確にすることで個人としての成長はもちろん、チーム力の向上を図りました。

今大会は昨年優勝したということもあり非常に大きなプレッシャーの中での戦いとなり、初戦から決勝までの5試合、チームとしても、個人としてもそれぞれ課題が残る試合となりましたが、決して受け身になるのではなくチャレンジャーとして、自分たちのスタイルで、勝つことができたのではないかなと思います。また第50回という節目の大会で「日本一、連覇」という結果を残せたことを大変嬉しく思っています。

今大会に参加して、改めて多くの方々に支えられ、より良い環境でハンドボールが出来ているということを実感しました。ハンドボールの楽しさや面白さ、スポーツの素晴らしさを更に多くの人に知ってもらい、ハンドボールが益々発展していくことを心より願っています。今大会の為にご尽力戴きました関係者の皆様、本当に有り難うございました。

## 男子

■準決勝

### 中部大学　32（12－15、20－9）24　早稲田大学

男子準決勝、早稲田大は足をよく動かしボールに対して高い位置からプレッシャーを与えるDFで相手のミスを誘い速攻で得点を重ねていった。一方中部大はよく粘り、ミスからの失点はあったものの長身を生かしたDFでセットでの得点を与えなかった。前半立ち上がり互角の戦いで試合が進んでいった中、先に主導権を握ったのは早大だった。素早いプレッシャーからミスを誘い14番川島の速攻などで9対5と4点リードする。しかし、中部大も粘り、右サイド、速攻などで4連取し同点に追いつく。その後一進一退の攻防を続けるが終盤早大は3連取し15対12早大のリードで前半を折り返す。

後半立ち上がり中部大はポストを有効に使い1点差に詰め寄るが、早大も2番玉城の得点などで再び3点リードする。さらに中部大に退場を与え早大に流れが傾くと思われたが、中部大16番岡本にセーブされ得点することができない。逆に好セーブで勢いづいた中部大は退場を無失点に抑えると23分までに18番美並のサイドシュートなどで20対27とリードする。その後早大はオールコートマンツーマンを仕掛けるが中部大の落ち着いたボール回しのため点差を詰めることができず24対32で終了した。

### 日本大学　35（18－14、17－20）34　大阪体育大学

ゲームは立ち上がりから、大体大、日大ともスピーディーな攻防が繰り広げられた。序盤は大体大のDFが機能し、速攻での得点やポスト、サイドを使った攻撃で9分までに8対6とリードをする。対する日大も、10分過ぎの大体大の退場をきっかけに逆転に成功する。ここから日大1番渡邉の好守により、16分過ぎには8対11として引き離しにかかる。前半中盤は日大のDFの足が動き始め、大体大の得点が伸びない。大体大はクイックスタートで応戦するも、得点差は3点から縮まない。前半最後に日大の不正交代で退場者がでるものの、1番渡邉の好守と8番吉永のシュートで18対14とし、日大が4点リードで前半を終えた。

後半始めは1人足りない日大だったが、再三のノーマークシュートを1番渡邉が阻止して、4分には5点差まで日大が引き離す。ここから大体大が日大の攻撃を1番村上を中心にして守り2点差まで詰め寄るが、日大エースの2番水町のシュートを止められず、3点差から縮めることができない。日大は1番渡邉を中心とした固いDFと抜群のパスワークで、逆転を最後まで許さずに35対34で勝利した。

■決勝

### 中部大学　31（12－8、19－16）24　日本大学

男子決勝、30年振りの優勝を目指す日本大学と、悲願の初優勝を目指す中部大学との対戦。

開始1分30秒、日本大がエース2番水町のロングシュートで先制するも、中部大はポスト5番岡元のシュートですぐさま応戦する。試合序盤は中部大のペースが続く。日本大の3：3ディフェンスの裏のスペースを上手く利用し、ポストシュート、カットインシュートの機会を多く作り、7対3とリードする。日本大は、センター19番原を中心としたパスワークが中部大の6：0ディフェンスに対して機能せず、なかなか決定的なチャンスを作ることができない。前半は序盤にペースを掴んだ中部大が12対8とリードして終了する。

後半、両チームのゴールキーパーの連続セーブにより、試合が大きく動かないまま15分が経過する。中部大は、日本大に退場者が出た間に18番美並の速攻、サイドシュートでこの試合初めて6点差とする。残り6分、日本大はハーフコートマンツーマンディフェンスで中部大のミスを誘おうとするが、ポストを絡めた攻撃を止めることができない。攻撃、防御ともに終始ペースを離さなかった中部大が31対24で勝利し、初優勝を手にした。

## 女子

■準決勝

### 大阪体育大学　28（14－9、14－12）21　東京女子体育大学

大会4日目女子準決勝第1試合は、昨年の優勝校、大阪体育大学と関東2位の東京女子体育大学の1戦となった。大阪体育大学のスローオフで始まると、立ち上がり東女体はキャプテン安倍のポストシュートで先制する。大体大はすかさずエース佐々木のDSで応戦。その後東女体が3連取で4対1とリードを広げる。5分46秒、大体大はタイムアウトをとると、落ち着きを取り戻した河嶋、北原のFBで追いつくと、7連取で一気に8対4と差を広げる。その後東女体は石井のステップシュートなど連続得点で追いすがるが、秋山、佐々木らの速攻でリードを広げる。大体大はGK馬場を中心とした手堅いDFで失点を抑えると、前半を14対9と5点差で折り返す。

後半に入っても大体大は各ポジションで着実に加点し、5分には東女体の退場を機に連続得点で差を広げる。東女体も石井、安倍で追いすがるが大体大の勢いは止まらない。東女体のテクニカルミスを速攻につなげ得点を重ねる。後半、大体大の連続退場を機に東女体も粘りを見せ5連続得点で追いすがるが、時すでに遅し、最後は28対21で大阪体育大学が勝利し、昨年の優勝校の貫録を見せつけた試合となった。

### 大阪教育大学　19（9－10、10－7）17　筑波大学

準決勝第2試合は、6年ぶりの決勝進出を目指す筑波大と、1回戦で優勝候補の東海大を破り勢いに乗る大阪教育大との対戦となった。試合開始50秒、大阪教育は4番築山のロングシュートで初得点をあげると、立て続けにシュートを決め、3対0と筑波を引き離す。たまらずタイムアウトを取った筑波は、その後、積極的に仕掛けるディフェンスが機能し始める。ゴールキーパーの16番関澤がサイドシュートをことごとくシャットアウトする間に、4番林のロングシュートや10番田村の速攻で徐々に追い上げ、19分には同点とする。一進一退の攻防が続いた前半は、10対9筑波リードで終了する。

後半、大阪教育はセンター7番眞継とポスト3番堀川のコンビが機能せず得点を重ねることができない。一方筑波も、機動力のある田村を左バックにし、攻撃に変化を持たせるがなかなかチャンスをつくることができない。19分10秒、大阪教育は5番笠原のロングシュートで逆転すると、眞継、6番高宮、17番倉谷が速攻で連続してシュートを決め、この試合初めて4点差をつけ試合を決定づけて勝利した。19対17のスコアが物語るように、両チームの質の高いディフェンスが光った試合となった。

■決勝

### 大阪体育大学　28（16－4、12－9）13　大阪教育大学

2年ぶりの関西勢同士の対決となった決勝戦、大阪教育大学スローオフで熱戦の火ぶたが切られた。大阪体育大学は秋山のFBで得た7mスローを佐々木が確実に決め先取点をあげる。すぐさま大教大はポスト堀川で取り返す。大教大は大型ポストにボールを集めチャンスを狙うが、大体大の厳しいチェックになかなか得点を奪えない。12分、9対4と5点差になると大教大がタイムアウトを請求するが流れを変えられない。25分大体大は角南の2回目の退場で数的不利となるが、相手の得点を抑えると大教大は16分間ゴールを奪えないまま16対4と大体大が大きくリードし前半を終了。

後半1分20秒、大体大北原のDSで17対4とする。大教大は堀川のポストで久々の得点を挙げるが、大体大の固いDFの前に連続得点が奪えない。12分大体大は大山のFBで20点目を挙げるとその後13分に大体大がタイムアウト。その後も大教大はOFでのイージーミスからFBに持ち込まれる展開が続く。大体大はメンバーを4年生中心に交代する余裕のある戦いぶりで、最後まで危なげないゲーム展開で28対13と大差で大阪体育大学が2年連続3回目の日本一を手にした。

# 全日本学生ハンドボール選手権大会初出場校の抱負

## 北海道教育大学岩見沢校（女子）

### 北海道教育大学岩見沢校女子ハンドボール部主将　富木 皐月

北海道教育大学岩見沢校女子ハンドボール部は、平成18年、高校での経験者が入学した際につくられ、当時は部員が10人でした。スポーツ教育課程がある本校ですが、ハンドボール経験者の入学は少なく、1学年に1人いるかいないか、といった状況が今も続いています。また、スポーツ教育課程の学生数が1学年60人前後であり、他の部活動にも力を入れているため、ハンドボール部は常に人数不足に悩まされてきた部活動でもあります。

私たち現在の3年生が入部した当初は、1部リーグに所属していたものの、平成24年度春期リーグ戦で2部に降格してしまいました。その後は3大会続けて昇格することができず、2部リーグに所属しました。私が2年生の平成25年度秋季リーグ戦は、私がキャプテンとなり、初めての新チームでの試合となりました。人数不足のため5人で出場する試合もあり、惜しくも2位という結果に終わりましたが、初めてチームで戦うハンドボールができ、全員が手ごたえを感じたリーグでもありました。この時期、「楽しいだけではだめだ、勝てるハンドボールを目指そう」という意識がチーム内で高まってきました。少ない人数ながらも、練習試合をしたり、他校との合同チームで大会に出場したりと、とにかく多くの経験を積んできました。2部所属中は常に人数不足に悩まされ、3人で練習することもめずらしくありませんでしたが、4月には1年生が入部し、男子ハンドボール部もできたことで、練習の幅も広がりました。そして、私が3年生の平成26年度春季リーグ戦で、ついに1部に昇格することが出来ました。

今回の秋季リーグ戦は、女子の上位2チームが全日本インカレに出場できる記念大会でした。私たちは3勝1敗1分、しかも得失点1点差の2位という結果でのインカレ出場です。満足のいく結果ではありませんが、全国のレベルを肌で感じ、目指すべき姿をこの目で見ることができる、素晴らしいチャンスをいただきました。

現在私たちは、3年生4名、2年生2名、1年生4名、マネージャー3名の計13名で、「インカレ1勝」を目標に活動しています。練習は週3回と決して多くはありませんが、目標を見失わず、集中取り組めるよう雰囲気づくりを大切にしています。また、部員のほとんどが大学からハンドボールを始めた初心者であり、部員同士教え合い、学び合いながら日々練習に励んできました。私自身、高校からハンドボールを続けてきましたが、全国大会に出場するのは初めての経験です。全国のレベルがどのようなものか、正直想像がつきません。もしかすると、私たちの取り組んできたことが、まったく通用しないかもしれないという不安もあります。しかし恐れることなく、今できる精一杯でチャレンジしてきたいと思います。何度も壁にぶつかりながらも、やっと手にすることができた全日本インカレへの出場権です。出場することに満足せず、自分たちのプレーを1つでも多く出せるよう、全力で戦ってきます。そして、今後さらにレベルアップするためのヒントを、たくさん吸収して持ち帰ることができたらと思います。これまで一緒に戦ってきた仲間、そしてここまで私たちを支えてくださった保護者の方や先生方、先輩方、応援して下さる多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、価値のある大会にしたいと思います。全日本インカレの舞台に立てる喜びと、北海道の代表であるという責任感を胸に、全力でチャレンジします。

## 名桜大学（女子）

### 名桜大学女子ハンドボール部監督　仲田 好邦

はじめに、名桜大学ハンドボール部の全日本インカレ出場に際しまして、ご支援ご協力いただきました関係各位に心から感謝申し上げたいと思います。以下、簡単ではございますが紹介させていただきます。

**●復活　～きっかけは一人の選手～**

名桜大学女子ハンドボール部は、1994年に3期生によって創立され、今年で18周年となりました。しかしながら今日まで、厳しい時代があり幾度かの休部も経験しております。筆者が着

任したのは2010年、その当時も休部中でした。翌年2011年の4月初旬に、入学したばかりの當山琴乃さん（現主将・浦添商出）が部の復活を懇願してきました。復活させようにも部員は集まらず、仕方なく彼女は一人で男子部の練習に参加していました。そして、一方では部員勧誘を続け部員が増えるのをひたすら一人で待ち続けていました。彼女の熱意は生半可なものではなく、155センチの小柄ながらゴールキーパーの彼女は、男子のシュートに精一杯喰らいついていました。また、大会の雰囲気を感じたいと男子の遠征にも参加していました。こういった彼女の姿を見て、筆者もどうにか女子部を復活させ當山さんを大会に参加させたいという想いが高まっていきました。

**●苦い思い出の復活戦からインカレ出場権獲得まで**

翌2012年に新入生をかき集めどうにか人数が揃い、九州学生秋季2部リーグに参戦しました。スタメンに初心者が複数いる寄せ集めのチームでした。復活戦は沖縄での地元開催でしたが結果は2部4位、選手にとっても納得のいく結果ではありませんでした。その後は部員の入れ替わりも激しく、満足にトレーニングができない日々が続きます。週2回の練習でも人数が揃わず、隣で練習をしている男子部員のサポートでどうにか練習をこなしていました。しかしながら、少しずつ選手の意識も高まり練習の回数も増えていきました。その甲斐あってか2013年の春季2部リーグを全勝で終え、1部昇格を果たすことができました。

今シーズンは最大の目標を全日本インカレ出場としてスタートしました。春季リーグは偶然が重なり3位に滑り込み、西日本インカレ出場権を獲得しました。西日本インカレでは予選リーグ敗退したものの、初出場初勝利をおさめることができました。

秋季リーグでは出場権を争うと予想していた沖縄国際大学と初戦で引き分け、得失点差で3位となりどうにか出場権を獲得しました。西日本インカレで7年ぶりの全日本インカレ出場を決めた男子に続くことができ、初のアベック出場も決定しました。

**●名護の想いを胸に**

名桜大学が位置する名護市は、お世辞にもハンドボールが盛んとは言えません。しかしながら、名護市には屋部小学校、屋部中学校、名護高校、沖縄高専、名護クラブ（一般）のチームがあります。2011年には各カテゴリーで連携しようと名護市ハンドボール協会が立ち上がりました。名桜大学を拠点に名護高校、沖縄高専、名護クラブと頻繁に合同練習をしています。また、屋部小学校や屋部中学校に部員をコーチとして派遣をしています。男女とも全国大会経験者はごくわずかで優秀な選手はおりませんが、大げさでなく名桜大学がインカレに出場することは名護市のハンドボールに関わる人たちの誇りであり希望でもあるのです。

沖縄に咲く桜は寒緋桜（カンヒザクラ）と言って、ショッキングピンクの花を咲かせます。南国らしい目に鮮やかなエキゾチックなその色合いは、県外の桜とはまた違った趣を醸し出してくれます。全日本インカレでは、県内でお互いに切磋琢磨する琉球大学や沖縄国際大学、そして名護市協会の想いを胸に、名桜らしさを精一杯発揮して大会に彩りを加えられるような試合ができたらと考えています。最後に、チーム紹介の機会を頂戴したことに感謝いたしまして筆をおきます。

## 関西学院大学（女子）

関西学院大学女子ハンドボール部　宮里 寿枝

**●歴史**

昭和53年：創部　昭和55年：1部昇格　昭和58年：2部降格

平成26年：31年ぶり1部昇格、春季リーグ戦4位（創部以来最高成績）、西日本学生選手権初出場、全日本学生選手権初出場

**●大会への道筋**

関西学生連盟のリーグ戦形式の変更（女子）により、本年度より私たちチームは1部リーグに昇格しました。その春季リーグ戦では、ファーストステージで全勝し、またセカンドステージでは上位リーグの関西大学・立命館大学・同志社大学を破り、見事全勝で関西4位という結果で終わることが出来ました。そのおかげで、西日本インカレ初の出場権もとり、「全日本イン

カレ初出場」に向けて全力を尽くしましたが、残念ながら予選リーグ３位に終わり、目標達成が叶いませんでした。しかし、全日本インカレの記念大会ということで、関西推薦枠であと２チームが出場できると知り、再度、目標に向けてチーム一丸となっての挑戦が始まりました。秋季リーグ戦では上位グループで最下位となり、下位グループ１位の京都教育大学とのインカレ出場決定戦にまわりましたが、勝利し、全日本インカレに出場することとなりました。

●大会抱負

西日本インカレ・秋季リーグ戦では、納得のいく試合もできず、自分たちの持っている力も出し切ることができませんでした。そこで秋季リーグ戦が終わってからのたくさんのチームとの練習試合を通して、チーム･個人の課題を明確にさせ、修正し、守りと粘りの〈関学ハンドボール〉で、まずは初戦突破したいです。創部初の全日本インカレ出場ということで、OB・OG、大学関係者、父兄などたくさんの方々が応援また支援してくださっています。このような方々にも結果を残すことで、感謝の気持ちを伝えたいと思います。

## 東海学園大学（女子）

### 東海学園大学ハンドボール部監督　斎藤 正晴

**１．部発足の歴史**

平成 20 年、東海学園大学に赴任した時にはハンドボール部は男子しかありませんでした。その年の６月、当時二部だった男子部の練習に顔を出していると､ある女子学生がやって来て、女子部も作りたいと私に監督の依頼をしたのです。

「何を目標にやるの？　遊びの付き合いならお断りだよ」と言うと「インカレ出場が目標です」と真剣な顔つきで返事が返ってきました。それならと二つ返事で了解し、１年生６人と２年生３人の９人で練習が始まりました。

と言っても練習場所もなく、部員とともにグラウンドの隅にコートを作ることから始めました。更には男子部との関係やボール購入資金のことなど様々な課題が山積する中、その年の秋リーグから二部最下位からの出場に漕ぎつけました。まだ、ユニフォームもなく、特例でビブスを着けての出場でした。

翌 21 年春のリーグ戦で二部優勝し、入れ替え戦にも勝って秋リーグから一部デビューとなりました。それまでは、男女の監督を引き受けていたのですが、試合会場や時間が重なることがあるなど、さすがに二束のわらじは無理と判断し、二年目の秋から女子一本に絞らざるを得ませんでした。

**２．出場への道筋**

創部３年目に東海地区３位となり、西日本インカレ（岡山）に出場。４年目の秋にはいよいよ全日本インカレ出場を目論んでいた（地区２位までが出場可）のですが、またしても３位に終わりました。しかも２位の大同大学とは勝率（５勝１分け１敗）も同じ、得失点差も同じで、総得点での争いとなり、わずかに１点差（198 点対 197 点）で涙を呑みました。まさに１点の重みを痛感させられた忘れられないシーズンとなりました。

西日本インカレに出場し始めると、女子ハンドボール部もようやく認知されるようになり､部員が徐々に増え、6 対 6 やゲーム練習が可能になってきました。推薦で選手を集める制度がなかった本学にとっては、先輩後輩の関係で受験してくれる高校生も多く､本当に助かりました。今年度から大学側も推薦枠を検討していただけるようになりました。

今年は「西日本インカレの予選リーグで、インカレ出場の切符を勝ち取る」との目標で臨んだのですが選手の怪我などでコンディションが悪く、秋の地区リーグまで持ち越しとなりました。たまたま今年のインカレは

女子が50回記念大会ということで出場枠が32チームとなったおかげで辛くも初出場できることになりました。

3．大会への抱負

地区3位の出場ということで、組み合わせはおそらく厳しい対戦相手が予想されますが、ここへ来てやっとレギュラー陣も揃ってきましたので、せっかく頂いたチャンス、悔いのない戦いをするつもりです。なかなか経験できない高レベルの相手と試合ができることは、選手にとっても貴重な体験となることでしょう。観戦いただいた方々に東海学園大らしい何らかのインパクトを感じていただけるよう全力を尽くしたいと思っています。

## 国際武道大学（女子）

国際武道大学　清水 宣雄

**目指せ『全勝』？　いいえ『全笑』！**

国際武道大学は1984年に開学し、昨年創立30周年を迎え、今年度入学生が31期生となりました。開学と同時にハンドボール部も創部され、部も今年、創部31年目を迎えております。開学当時は女子学生が全体の5％しか在籍せず、ハンドボール経験者もたった一名で、マネージャーとして活動してもらうしかありませんでした。ゴールキーパー経験者だったので、県の総合選手権大会に、男子チームのゴールキーパーとして参加させようとしましたが、女子のトーナメントがあるため認められず、出場させることを断念しました。次の年、他のクラブから女子選手を借りて、即席の女子ハンドボールチームを作り、同大会に出場を果たして、一回戦で高校生に負けたことが伝説となっています。その後、数年おきに、経験者が入部して来ましたが、チームの立ち上げには至らず、マネージャーとして縁の下の力持ちをお願いしていました。

開学から20年目、女子経験者が7名入学して来たことから、数名の未経験者を加えて、女子チームが立ち上がりました。当初は未経験者も多く、ゴールキーパーも居なかったため、日本のビーチハンドの発祥の地、富浦で開催されるビーチハンド大会を中心とした活動を行っていました。2013年には卒業生も含めたチームで、念願の初優勝を果たすことができました。現在まで、岡田朋子（20期）中谷香織（23期）増田沙紀（24期）の3名が、ビーチハンドナショナルチームのメンバーに選出され、現在も卒業生が中心となりビーチハンド大会への参加を続けております。

暫く、ゴールキーパー不在で関東学生女子リーグ戦への参加を見送っていましたが、立ち上げから3年目、帰国子女で運動神経抜群、ボクシング部を兼部していた青木宝子（20期）がゴールキーパーに転向してくれたお陰で、参戦できるようになりました。これ以降、幸いなことに、ゴールキーパー経験者が定期的に入学してくれております。

加入から2年目の2006年度秋季リーグ女子2部において念願の初優勝を果たし、入替戦に出場しましたが、国士舘大学に大敗して、1部の壁の厚さを実感させられました。その後、上位チームと接戦はするものの、いま一歩及ばず、優勝から遠ざかっておりました。しかし、この間、全国大会経験者も入学してくれるようになり、未経験者も体育大生らしい、抜群の運動神経からメキメキ上達し、着実にチーム力を向上させて来ました。

女子一期生のメンバーは、他大学との交流にも積極的に取り組んでくれました。合同練習会や合同女子会を企画して、ハンドボール仲間の親睦を深める機会を作り、卒業後も交流が続いていると聞いております。ハンドボールで出会った全ての人を、微笑ませたい。そんな思いを込めて、「全笑」という部旗を作って残していってくれ、楽しいハンドボールをすることが、女子チームの伝統となりました。

今回の8年振りのリーグ戦優勝、東日本インカレ初出場、全日本インカレ出場権獲得の快挙は、女子チームの監督を勤めている諸岡雄太（17期）の指導の賜物であります。青年海外協力隊として、バングラデシュにおいてハンドボールを指導してきた経験を活かし、女子に対する極め細やかな指導と戦術で、個々の選手の長所を十二分に引き出し、粘り強いチームを作り上げてくれました。

今春のリーグ戦では、上位3チームが1敗で並ぶ混戦となりましたが、得失点差による決着に備え、下位チームにダブルマンツーマンまで仕掛けて、点差を稼ぎました。この貯金が功を奏し、最終戦で茨城大学に敗れながらも、逃げ切ることができました。スタートメンバーにケガ人が続出して、盤石の体制で臨むことができず、途中で一時、得失点差を逆転されましたが、システムを変更して流れを変え、再逆転に成功しました。入替戦では、日本女子体育大学に善戦し、成長を実感することができました。東日本でも粘りを遺憾無く発揮し、東北の雄、東北福祉大学に、薄氷の勝利を収め、インカレ出場切符を掴み取りました。 初出場のインカレでは、プレッシャーに負けることなく、戦術を駆使した緻密なハンドボールで楽しみたいと思います。会場の皆様の「全笑」を目指し頑張ります。

# 第4回アジアビーチゲームズ　ビーチハンドボール競技
*4th Asian Beach Games*

大会期間：2014年11月14日－23日
開催地：タイ・プーケット

■最終順位
男子　優勝：カタール
2位：オマーン
3位：パキスタン
4位：バーレーン
5位：クウェート
**6位：日本**
7位：タイ
8位：ベトナム
9位：香港
10位：インド
11位：バングラディシュ
女子　優勝：タイ
2位：チャイニーズタイペイ
3位：ベトナム
4位：中国
**5位：日本**
6位：香港
7位：ヨルダン
8位：トルクメニスタン
9位：フィリピン
10位：インド

## 男子

### 監督　氷海 正行

本大会の選手選考は平成25年度の主要国内大会である。第17回ビーチハンドフェスタ・サマーカップ富浦さざ波大会（8月3・4日）、第15回全日本ビーチハンドボール選手権大会（神戸市・8月24・25日）の出場選手及び、元全日本選手から選考を行った。10名を選考したが1名は大会直前に負傷した為、辞退して9名となった。強化合宿は1回目を富浦海岸で行った。（7月31日～8月3日）、2回目は愛知県南知多町で行った。（8月22日～24日）2回の合宿後半には国内の大会が組まれており、実践を重視した強化合宿であった。

**〈戦評〉**

Aグループ5チーム予選リーグ
■11月15日（土）
**日本　0（14－21，15－19）2　カタール**
大会初日、前回王者カタール相手に1セット目は序盤接戦するも終盤離され1セット目を落とす。2セット目序盤リードし勢いに乗り接戦のまま終盤を迎えたが、カタールがタイムアウトを取り、その後4点リードされ試合終了。前回王者に惜敗したが次につながる好ゲームだった。
■11月16日（日）
**日本　0（16－26，13－18）2　オマーン**
予選リーグ2試合目オマーン相手に上位を狙う日本だったが勝負所でミスが続き、大差で1セット目を落とす。2セット目は是が非でも取りショットアウトに持ち込みたい日本は序盤からディフェンスが機能し、No.9奥野のナイスセーブもあったが攻撃でミスがあり、序盤2対6と4点差になったところでたまらずタイムアウト。タイムアウト後サインプレーでシュートまで持ち込むもNo.4高良がゴールの枠を外す。その後立て直し接戦で終盤までいくも力尽き13対18で2セット目を落としストレート負け。
■11月17日（月）
**日本　2（20－16，18－14）0　香港**
予選リーグ第3戦VS香港相手に1セット目、序盤リードしていい展開をしたが中盤に同点に追いつかれ焦った日本はたまらずタイムアウト。タイムアウト後の攻撃でしっかりと点数を決め流れを呼び戻し、No.4高良が連続得点を決め今大会初めてのセットを勝ち取る。2セット目日本が立ち上がりリードし一進一退の攻防が続き、No.7會田が累積退場によりレッドカードをもらう。悪い流れになるところで日本は踏ん張りリードを保ち試合終了。今大会初勝利を収める。
■11月19日（水）
**日本　0（18－21，20－21）2　ベトナム**
試合開始1セット目、序盤ベトナムの流れになり大きくリードをとられ、中盤No.5小川が一発レッドカードによりさらに状況を悪くする。その後ディフェンスが大きく機能しだし流れを呼び込むも後一歩足りず、1セット目を落とす。2セット目は1セット目同様ディフェンスが機能し一進一退の攻防が続いたが勝負所でNo.3中村がシュートミスをし、終始ベトナムリードのまま試合終了。
これにより予選リーグAグループ4位が確定。明日より5-8位決定戦にまわる。
■11月20日（木）
**日本　2（19－18，14－15，8－6）1　タイ**
5-8位決定戦、開催国タイ相手に1セット目序盤一進一退の攻防が続いたが、No.5小川のシュートミスによりタイがリード、5-6位決定戦に出場するためには負けられない日本はたまらずタイムアウト。その後No.9奥野のナイスセーブもあり同点に追いつき、No.4高良の勝ち越しシュートが決まる。すかさずタイがタイムアウトを取りラスト20秒からスタートし同点に追いつかれたが、ラスト5秒でNo.5小川が勝ち越しシュートを決めホイッスル。1セット目を先取する。2セット目No.9奥野のナイスセーブもあったがシュートミスが続きタイが終始リード。試合終盤ラスト5秒でNo.5小川の同点シュートで追いつくもゴールデンゴールで1点取られ試合終了。2セット目を落としセットカウント1-1の

ためショットアウト。ショットアウト奥野のナイスセーブによりNo.3中村が決めれば勝利が決まるというところでシュートを外し、サドンデスという苦しい展開となる。しかし、No.4高良が決め、No.9奥野が相手のシュートを止め試合終了。セットカウント2-1で開催国タイ相手に勝利を収める。
これにより明日5-6位決定戦に進む。

■11月21日（金）

**日本 0（12－19，16－19）2 クウェート**

5-6位決定戦クウェート相手に1セット目序盤ディフェンスが機能していたが、オフェンスのシュートミスが続きリードを許す。タイムアウト後No.4高良がシュートを決めるがなかなか追いつけず1セット目を落とす。2セット目は1セット目に続きディフェンスが機能しNo.9奥野のナイスセーブもあり接戦に持ち込むも後一歩及ばず、2セット目を落とす。今大会6位に終わる。

参加11チーム中6位の成績で本大会を終える。

短期間の強化合宿しか行えなかったが、選手達は全力を出し切り、且つ、全員のまとまりも良く充実した大会であった。今後の対策と課題は以下のとおりである。①国際試合経験を多く積み、どの様なチームにも柔軟対応できる、強い意志と技術を養う。②スピンシュートの練習量多くして、シュートの正確さを身につける。③上位のチームと体格（特に身長）の差はあるが、その対策としてスピードとスタミナを養い対抗する。④チームとしての強化合宿は日程が限られるので選手各自に課題を与え、個人練習量を増す。⑤今回の大会より、エントリーメンバー14名、大会出場メンバー10名となった。テクニカルミーティングで10名を登録する。従って、試合前のメンバー提出は無くなった。

最後にアジアビーチゲームズに参加させて戴いたJOCに深く感謝し御礼を申し上げますと共に、斉藤団長はじめ本部役員の皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。

# 女子

## 監督 大原 康昇

タイ（プーケット）で11月14日より開催されたアジアビーチゲームズに参加いたしました。女子の参加チームは10チーム出場で、A•Bブロックに分かれ、日本はB（タイ、中国、香港、インド）ブロックで予選リーグを戦いました。目標である3位以上には届かなかったが、予選敗退後の順位決定戦では勝ち進み5位でした。上位国（タイ・台北・ベトナム・中国）は試合経験が豊富でビーチ特有の新たなテクニックも使って来ました。その上、スピンシュートがよりスピーディーで確実性がありました。今後の日本チームの課題だと思います。ただ、短期間の強化合宿で選手諸君はよく健闘してくれた事に感謝する次第です。結果は次の通りです。

**〈戦評〉**

Bグループ5チーム予選リーグ

■11月15日

**日本 2（15－10、23－3）0 インド**

1セット目：立ち上がり、相手キーパーの好セーブによりシュートが決まらず、インドにリードを許す展開になった。中盤からディフェンスがアグレッシブに動き出せたことで、リズムを掴み攻撃に繋がり逆転することができた。終盤は点差を保ったまま優位に試合を進めることが出来た。2セット目：1セット目の良い流れをそのままに、ディフェンス、オフェンス共に練習通りのプレーができ、中谷のスカイシュートで点数を量産した。

[個人得点] 中谷：20点、高橋•谷川：2点、斉木：3点、山本•沓掛・安田：2点、桐生：1点

■11月16日

**日本 0（8－13、8－11）2 香港**

1セット目：立ち上がり、両チーム共にシュートミス、キーパーの好セーブにより得点が入らない状況が続いた。ロースコアで香港リードのまま試合は進み、残り2分でタイムアウトを取り、流れを変えようとしたが、香港の流れを断ち切れなかった。2セット目：流れを変えるために、高橋のカットインを中心に攻撃を組み直し、序盤は日本リードで試合を進めるも、シュートがなかなか決まらず、逆に香港に逆転される。残り30秒でタイムアウトを取り、最後の攻撃に望みをかけるも相手ゴールキーパーに阻まれ、試合終了となった。痛い1敗であった。

[個人得点] 高橋：8点、斉木・谷川：3点、中谷：2点

■11月18日

**日本 0（14－17、11－17）2 タイ**

1セット目：タイ4番のスピンシュートで先制され、追加点もタイと日本はなかなかゴールが決まらず苦戦。中盤よりディフェンスファールを誘い2本連続ペナルティースローを決め、攻撃の波を掴みかけたが、力及ばず、14対17で

1セット目を失った。2セット目：五味のシュートで先制するも、タイもすぐにキーパープレーヤーの得点で逆転する。タイのキーパーの好セーブにより、徐々に点差が開き、6分にたまらずタイムアウトを取り流れを変えようとした。中谷のスピンシュート、谷川のキーパーシュートで追い上げるも点差を詰めることはできなかった。

［個人得点］高橋：6点、中谷・山本・谷川：4点、五味：3点、斉木・桐生：2点

■11月19日

**日本　0（12－15、5－18）2　中国**

1セット目：高橋のシュートで先制するも中国は23番のスピンシュートで応戦する。その後、谷川のキーパーシュートで連続得点するも、中国も、スピンシュート、キーパーシュートで序盤は点の取り合いとなった。中国ディフェンスの反則で得たペナルティースローを山本が確実に決めるも、点差が縮まらず、12対15で1セット目を失った。2セット目：中国6番キーパーシュートで先制、序盤は日本のシュートミスが続き5分で3対13と大きく引き離されてしまった。中国が退場者を出す中なかなかシュートが決まらず、5対18で負けてしまった。

［個人得点］中谷・高橋・谷川：4点、山本：3点、沓掛・五味：1点

■11月20日（順位決定戦）

**日本　2（13－11、13－15、9－6）1　ヨルダン**

1セット目：ヨルダン8番のスピンシュートで先制されるが、すぐに高橋が取り返す。その後も一進一退の攻防が続き、残り40秒で同点となる。残り5秒でペナルティースローを得たが、惜しくも外し、ゴールデンゴールの延長戦へ。ジャンプボールをヨルダンに取られ、万事休すとなるもキーパー安田の好セーブで日本ボールとなり、高橋のキーパーシュートが決まり13対11で日本がこのセットを取った。2セット目：ディフェンスの要の山本が3分に怪我で交代となり、悪い流れが断ち切れず、残り2分で8点差と広がる。そこから、安田の好セーブ、連続で2点シュートが決まり追い上げるが、時間が足りず13対15で2セット目は失う。3セット目（ショットアウト）：先攻のヨルダン13番がスピンシュートで2点を先取するも、中谷のスピンシュートで応戦。互いに点を決めた後、ヨルダン3人目、4人目のシュートをキーパー安田が体を張って連続で止め、日本は全員がシュートを決め9対6で勝利した。

［個人得点］谷川：10点、斉木：7点、高橋：5点、中谷：4点、五味：3点、沓掛・桐生・安田：2点

■11月21日（5、6位決定戦）

**日本　2（14－20、9－8、7－4）1　香港**

1セット目：雨の中始まった5、6位決定戦。日本はキャッチミス、パスミスが多くなかなか思い通りのプレーができない中、香港は着実に点を重ねていく。タイムアウト後、日本も動きがよくなり追い上げるも届かず、14対20で1セット目を失う。2セット目：嫌な流れを断ち切ろうとオフェンス、ディフェンス共に積極的に動き出すと、香港のミスを誘うことに成功。しかし、日本の攻撃も香港キーパーに阻まれて、ロースコアで試合が進む。残り20秒で五味の1点シュートで逃げ切った。3セット目（ショットアウト）：日本の先攻で始まり、中谷、沓掛が2点シュートを決める。香港も1人目は2点を決め、2人目の時にキーパー安田がレッドカードとなる。そのままペナルティースローを決められ4対4の同点。その後、高橋が外すも、代わって入った斉木が止め、4人目斉木が2点を決める。香港は4人目はオーバーステップとなり、5人目桐生が確実に決め勝負あり。7対4で日本が制し、2対1で日本の勝利となった。参加10チーム中5位の成績で本大会を終えた。

［個人得点］中谷：13点、斉木：5点、谷川：4点、五味：3点、沓掛・高橋：2点、桐生：1点

最後に、本大会に参加させていただいた、JOC、並びに日本ハンドボール協会の関係各位に厚く御礼申し上げると共に、わが国に於いても益々のビーチハンドの発展とビーチ施設の充実を願いつつ報告といたします。

# 第12回日本車椅子ハンドボール競技大会

第12回車椅子ハンドボール競技大会は、11月22日・23日の2日間、徳島県鳴門市の大塚スポーツアミノバリューホールで10チームが参加して開催された。決勝戦は3年連続、宮城フェニックス対ドリーマーズの対戦となったが、延長の大接戦を制した宮城フェニックスが3連覇を飾った。

**▼普及の部・フレンドリーの部**

**岩出ハンドボール教室　13（3－3、10－4）7　ガッチャンズ**

［戦評］立ちあがりは一進一退の攻防であったが、チーム全体の展開としては岩出に一日の長があり、後半に連続得点と余裕を見せた。

**▼7・8位決定戦**

**藍野大TOPS-G　17（10－4、7－9）13　パッチワークス**

［戦評］藍野大は試合早々から4連続得点でペースをつくり、後半も一方的に勝利した。

**▼5・6位決定戦**

**大阪NRF　13（6－4、7－3）7　京都伏見スパローズ**

［戦評］前半、大阪NRFは北野の個人技で見事なシュートを決めて2点差で折り返す余裕を見せた。後半は試合慣れした京都伏見スパローズの反撃が期待されたが、大阪NRFは北野、馬場のコンビシュートを生かした得点で勝利した。両チーム共に活気あるゲーム内容であった。

**▼3・4位決定戦**

**APES・A　17（11－7、6－6）13　APES・α**

［戦評］両チームは気心を知り尽くした仲間同士であり、前半は共に厳しい内容のゲームとなった。APES・Aはポストプレーを利用した逆サイドへの早い展開でチャンスをねらい、APES・αは粘り強いディフェンスとポストの的確なパスで対抗した。しかし、シュート力では優れたAPES・Aが着実な得点で前半4点差をつけた。後半もAPES・Aはディフェンスを固め、前半のリードを守って辛勝した。

**▼決勝戦**

**宮城フェニックス　17（7－6、6－7、1－0、3－3）16　ドリーマーズ**

［戦評］決勝戦は、昨年と同様、宮城フェニックス対ドリーマーズの互いに知り尽くした顔合わせとなった。両チーム共に試合開始から点を取り合う展開で互角に戦った。開始直後5分、ドリーマーズは連続得点で幸先よく2点連取、先手の意欲を見せた。その後、ドリーマーズはサイド～センターと攻撃のチャンスをうかがったが、宮城GK板橋の好守にはばまれ、ドリーマーズのシュートを容易に許さず、前半12分、5対5の同点とし、互いに譲らず、やや攻めあぐねた形となった。しかし、ドリーマーズは宮城の流れを切ろうとしてシュートチャンスを狙ったが、今一歩の決め手を欠き前半を終了した。

後半も宮城は堅いディフェンスで容易にノーマークチャンスをつくらせず、むしろドリーマーズを精神的に追い上げる雰囲気を見せた。さらに残り時間2分、ドリーマーズは1点差と迫ったが勝負はそこまで、宮城GKの間隙をつく低めのシュートは見事、6連勝記録を飾った。ドリーマーズはライバルとしての成長が期待されるが、シュートに意表を突く豪快さを望みたいし、クイックシュートにスピンをかけたシュートの研究で対抗してほしい。しかし、両チーム共に“ナイスゲーム”の健闘を称えたい。

## 車いすハンドボール：ミニ情報

2013年9月9月21日～29日に第1回車椅子ハンドボール世界選手権大会がブラジルで開催された。アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、ボリビア、チリおよびウルグアイの6か国が参加。大会期間中に、国際車椅子ハンドボール連盟（IWHF）が設立され競技の普及・拡大を狙う。

2015年には、オーストラリア・メルボルンで 第2回車椅子ハンドボール世界選手権大会が予定されている。本場・欧州でも車椅子ハンドボール競技は以前より実施されているが、世界選手権には出場していない。

第1回車椅子ハンドボール世界選手権大会より

# リオオリンピック、世界選手権、東京オリンピックに通ずるロードマップを目標に始動した日本代表チームを激励する会

## —「政界産業界ハンドボール経験者の会（界友会）」から

去る 11 月 25 日、東京・銀座において、政界産業界ハンドボール経験者の会（界友会）が、130 名もの方々の出席のもと盛大に開催されました。

司会を務めたのは、福地和彦様（元・三井物産（株））。開会の挨拶では、界友会が開催されるようになった経緯、現在の会員数や今回が 7 回目であることなどの説明がありました。その後、福井俊彦界友会会長（キヤノングローバル戦略研究所理事長）から、ハンドボール界が力を合わせて進みつつあるのが頼もしい、東京オリンピックに向けて一歩ずつ進み、さらなる飛躍を目指しましょうとの挨拶の後、乾杯の発声をいただき宴はスタートしました。

しばらく歓談の後、迫本淳一様（松竹（株）代表取締役社長）の紹介を受けて、片岡千之助様（松竹（株）歌舞伎俳優）から挨拶がありました。片岡様は現在、青山学院中等部の 3 年生であり、ハンドボール部では主に右バックと左サイドでプレーされているそうです。高校に進学してもハンドボールを続けて頑張っていきたいとの力強い発言に、会場全体が大いに湧きました。

福井俊彦界友会会長

続けて、（公財）日本ハンドボール協会渡邊佳英会長から、オリンピックや世界選手権に向けての挨拶がありました。開催国枠での出場だけではなく、まずはリオデジャネイロオリンピックに出場するため、アジア予選を勝ち抜けるよう強化を進めていくこと、女子の代表チームは非常に順調に強化が進んでいるのに対して、男子の代表チームはアジア大会の結果が芳しくなく、もう一度立て直さなければならないとのことでした。

次に、（公財）日本ハンドボール協会市原則之副会長から、男子代表チームのアジア大会での結果が厳しいこと、女子の強化が順調なこと、男子もアンダーカテゴリーが順調でいい選手がいること等に触れ、トップ層をさらに強化していくためにはソフト面（一貫指導システム）とハード面（ANTC（味の素ナショナルトレーニングセンター）というシステムを実行する場）に加えて、選手に心を入れられる指導者が必要だとのことでした。

その後、市原則之副会長からの紹介で、特別ゲストとして出席の元内閣総理大臣森喜朗様よりご挨拶をいただきました。森様は、東京オリンピック招致活動を先頭に立って行って戴くとともに、ハンドボールに非常に縁深く思い出のある代々木第一体育館を東京オリンピックの会場となるようにご尽力戴きました。

ご紹介を受けて森様から、時折冗談を交えながら、界友会のような場がご自身の関わるラグビー界にはないことから勉強になったというお話や、ご自身の選挙区である石川県の北國銀行を例に挙げながらハンドボールとの関わり、そしてオリンピック招致における話を戴き、会場全体が大いに盛り上がりました。

市原則之副会長

森喜朗様

再びしばらくの歓談を挟んだ後、出席者の方から激励と応援の挨拶がなされました。奥正之様（三井住友フィナンシャルグループ取締役会長）は、界友会は色々な横の繋がりができる良い会だと言われた上で、陰ながら気持ちを込めて日本代表を応援していきたいとのことでした。市田隆文様（湘南東部総合病院院長）は、代表チームにはかつてのオルソン（1997年熊本：男子世界選手権日本代表監督）のようなフランス戦の空気が必要ではないかと提言しつつ、肝臓が専門であることからお酒の正しい飲み方についてレクチャーされ、会場からは拍手が起こっていました。水野裕矢様（琉球コラソン（株）代表取締役）は、自身の経歴の話を交えながら、現在代表を務める日本リーグ加盟チームの「琉球コラソン」に対する思いや、ハンドボール界を盛り上げていくために行っている活動について話があり、ハンドボールで恩返しをしていきたいとの心強い発言がありました。

その後は、ハンドボール振興議員連盟の紹介が行われる予定でしたが、総選挙前の時期ということもあり皆様多忙で、残念ながら欠席されていたため、名前の紹介のみが行われました。

最後に、（公財）日本ハンドボール協会多田博副会長から、新しい形でハンドボール界を盛り上げている琉球コラソンの活動を称賛しつつ、来年もまた集まりましょうとの挨拶で中締めとなり、会は盛況のうちに終了しました。

本年の界友会は、昨年を上回る方々が出席され、様々な方々から挨拶をいただき、非常に賑やかな会となりました。来年のリオデジャネイロオリンピック予選、2019年の熊本女子世界選手権、そして2020年の東京オリンピックに向け、ハンドボール界を挙げて進んで行こうという意気込みが感じられました。

出席者の方々の中で、野村正広様（パナソニック（株）エコソリューションズ社）からハンドボール界への提言を戴きました。曰く「オリンピックに向けた強化のロードマップがはっきりと見えてこないので、監督を誰にするのかといったことも含めて、強化の方針をはっきりと出していかないといけないのではないか」「ボトムアップで組織が変わっていく

多田博副会長

野村正広様

ためにも、若い指導者を育てたり、日本リーグの試合により多くの観客を呼べるようになるための取り組みをしたりすることが必要ではないか」「少子化が進んでいる現代において、これまでのように部活動に頼った育成だけでなく、クラブチームの底辺を広げるなど違った形での競技人口の確保が、ハンドボール界が盛り上がり、普及と強化を実現するためには必要ではないか」とのことでした。

日本全体が湧いた2013年10月東京オリンピックの開催決定から､確実にハンドボール界も盛り上がってきています。開催国枠での出場に留まることなく、まずはリオデジャネイロオリンピックへの出場、そして東京オリンピックでのメダル獲得に向けて、一歩ずつ日本のハンドボール界が進んでいけるのではないかと、大きく期待を抱ける会となりました。多方面からの応援と激励を得て、今後のハンドボール界がさらに発展していくことを願ってやみません。

（機関誌編集委員）

# 女子 U-16 日韓スポーツ交流　派遣・受入

派遣：2014年8月31日（日）－9月5日（金）　韓国・馬山市（マサン）
受入：2014年10月22日（水）－27日（月）　佐賀県・神埼市

**日本代表女子 U-16 選手団名簿**

| 役職 | 名前 | 所属 |
|---|---|---|
| 団　長 | 角　紘昭 | （公財）日本ハンドボール協会 |
| 監　督 | 尾石　智洋 | （公財）日本ハンドボール協会 |
| コーチ | 麻生　薫 | （公財）日本ハンドボール協会 |
| トレーナー | 内田　春菜 | 山中整骨院 |

| 背番号 | 名前 | 所属 |
|---|---|---|
| 1 | 渋佐　知里 | 川崎市立高津高等学校 |
| 2 | 中山　佳穂 | 夙川学院高校 |
| 3 | 大松澤　彩夏 | 聖和学園高等学校 |
| 4 | 尾辻　素乃子 | 粕屋町立粕屋中学校 |
| 5 | 西村　美里桜 | 四天王寺高等学校 |
| 6 | 山本　李虹 | 佼成学園女子高校 |
| 7 | 安藤　かよこ | 星城高等学校 |
| 8 | 南　夏津美 | 京都府立洛北高等学校 |
| 9 | 吉田　真紀 | 山口県立華陵高等学校 |
| 10 | 中村　風夏 | 川崎市立高津高等学校 |
| 11 | 吉田　瑞萌 | 佼成学園女子高校 |
| 12 | 元松　晃子 | 熊本市立千原台高校 |
| 13 | 相澤　菜月 | 水海道第二高等学校 |
| 14 | 金城　ありさ | 浦添市立港川中学校 |
| 15 | 衣川　直緒 | 星城高等学校 |
| 16 | 金山　桃歌 | 富山市立堀川中学校 |

## 戦　評

**■9月4日（木）**

**日本　20（8－16，12－15）31　韓国**

前半開始5分、日本は中山、安藤両エースの得点から流れを掴み、西村のポストシュートや金城の速攻などで5対3とした。その後、韓国の持ち味である速いカットインで連取されたが、日本も中村、相澤の速攻で巻き返すなど激しい攻防戦となった。しかし残り10分、日本チームのミスが続き、徐々に足が止まり始めたところを韓国の速攻やカットインで点を重ねられ、前半は8対16、韓国チームリードで折り返した。

後半は、安藤、中山のミドルや金城のポストシュート、中村のサイドシュートで韓国に詰め寄るが相手のカットインをなかなか止めることができず徐々に点差が開いていった。日本チームは守って速攻に繋げたいところだったが、ミスが続きリズムがなかなかとれなかった。相澤のカットイン、西村のポストプレーで応戦したが、20対31という結果で試合が終了した。

［個人得点］中山（佳）・西村・安藤：4点、中村（風）・相澤・金城：2点、南・吉田：1点

**■10月25日（土）**

**日本　24（11－11，13－8）19　韓国**

前半、左腕エース中山のミドルシュートで日韓交流戦、日本ラウンドがスタートした。韓国チームは得意の速いフェイントステップで日本のディフェンスを激しく揺さぶり、得点を重ねていき、日本は粘りのあるディフェンスから速い速攻で応戦した。6対8韓国チームリードで15分を迎え、韓国チームのアグレッシブなディフェンスから速攻を仕掛けられたが、機動力のある相澤、西村、金城のシュートが決まり、残り5分10対10と追い付いた。さらに中村のサイドシュートが決まり11対10としたが、ラスト10秒で韓国チームのNo.11左腕エースにステップシュートを打たれ、前半終了11対11で折り返した。

ハーフタイムで尾石監督から的確な指示を受け、後半は中村、安藤の三連取から好スタートを切った。後半10分まで、日本チームが19対15と引き離していったが、韓国チームのスカイプレーやポストプレーなどで四連取を許し、19対19に詰め寄られた。しかし、日本チームの司令塔である相澤を中心にまとまりのあるディフェンスを展開し、GK金山の好セーブから、西村、相澤の速攻、中山のミドルなどで、立て続けに4点を追加。最後、山本が確実に7mスローを決め、日韓交流戦、日本ラウンド24対19、日本チームの勝利で幕を閉じた。韓国チーム、日本チームともに白熱した好ゲームであった。

今回、初めて佐賀県で日韓交流を開催したが、佐賀県ハンドボール協会を始め、トヨタ紡織九州のみなさまに多大な協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

［個人得点］西村：6点、相澤：5点、中山：4点、安藤・中村：3点、金城：2点、山本：1点

## U-16 女子日本代表監督　尾石 智洋

18 回目を迎える日韓交流ですが、たくさんの支えがある中、充実した活動が出来たと思います。今年度、韓国の女子ジュニアは世界選手権金メダル。女子ユースオリンピックでも見事に金メダルを獲得しました。U-16 監督は兼務している方なので、身近にその指導を見ることが出来、深い話し合いもできます（コーチは金メダリストでした)。選手にとっても指導者にとっても大変貴重な機会です。身近に世界で通用するプレーを体感でき、身につけることで、当然ナショナルチームで活躍しオリンピックに出てメダルを獲得する意識が高まります。選手たちは、この恵まれた環境を大切に活動してくれました。今後の活躍を期待しています。

また、U-16 の活動は小中高生のハンドボーラーの夢が膨らむ活動として今後も更に発展していくべきだと思います。受け入れてくださいました佐賀県のハンドボール関係者の皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。

## U-16 女子日本代表コーチ　麻生　薫

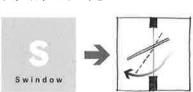
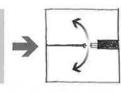
本年度の日韓交流事業は、角団長の「君たちの世代から韓国選手と交流し、お互いを理解し合うことが、将来に繋がる」という言葉からスタートしました。

訪韓では、トレーニング・マッチで、日本チームは韓国チームの速いステップワークや高いシュートテクニックに圧倒され、一気に攻め込まれるという強い印象を叩き込まれてました。キャプテン相澤を始めとする、安藤、中山、中村の 4 名を中心に、監督の意に応えるべく、戦術に前向きに取り組みつつも、選手たちの表情に焦りや不安が見られました。訪韓での親善試合でも自分たちの本来の力も発揮できずでした。唖然とする選手たちに、監督は彼女たちのモチベーションを下げないよう、受入での活躍を期待し、選手 1 人 1 人にそれぞれの良さと課題、また次の召集までに課題を克服してくるよう伝えました。

約 2 ヶ月後、選手たちは受入のため、佐賀県トヨタ紡織九州に召集されました。再度集結した選手達は、それぞれ少し変化がありました。その中でも印象的だったのが、U-16 日本代表であるというプレッシャーとの闘いに苦戦している選手たちでした。「U-16 は、日本代表に向けての登竜門である」という意味を痛感しました。このプレッシャーに、この世代で乗り越えさせていくことは、非常に重要だと感じました。技術だけではなく、代表選手としての心理的課題とも闘いながら、限られた時間の中で、チーム全体で共有し、繰り返しミーティング、トレーニングを行う。このような作業を繰り返し行うことで、徐々に選手たちは自信を持ち始めていきました。また、相手の得点源を確認することや、自分たちの長所を確認していきました。そして、監督と選手の関係だけではなく、選手同士でも主体的に確認作業ができて来ました。団長の言葉を社会的な意味合いだけではなく、オリンピックに向けて、選手達のさらなる飛躍を期待しての言葉だったのだろうと感じました。

最後に、毎日熱心にご指導くださり、この度快く選手を送り出してくださった所属チームの先生方。合同合宿をしてくださった、石川監督、辻コーチ、ユースチームのみなさん。受入時では多大なご協力をいただいたトヨタ紡織九州の佐久間さん、金さん、そして選手の皆さん。男子ユースコーチの北林さんは GK の指導をするために佐賀県に駆けつけてくださいました。本事業にご協力、ご支援くださった、みなさま方に厚く御礼申しあげます。

## U-16 女子日本代表キャプテン　相澤 菜月

日韓交流を終えて韓国ラウンドで明らかになった課題が、日本ラウンドで修正できました。そして、日本チームの得意とする速攻でゲーム展開ができたのではないかと思います。また、チーム全員のガッツポーズでコートプレーヤーとベンチの一体感が生まれ、「絶対に負けない」という気持ちがあったからこそ勝つことができました。昨年度に引き続き勝つことが出来て本当に嬉しかったです。これから、この経験を生かしてさらにレベルアップをしていきたいと思います。今回の交流でチームメイト同士でも互いに良いプレーなどを見つけることができ、前向きにプレーする素晴らしさを学びました。このような機会を与えて下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。たくさんの応援ありがとうございました。

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
# Free Throw

## ～輝く 2015 年に…～

新しい年、2015 年が明けた。皆さんはどのような初夢をご覧になったでしょうか。勢いよくコートを突っ走るアスリートの姿は出てきましたか？　韓国や急成長している中東勢をなぎ倒す戦いを見られた方がいらっしゃるかもしれません。現実なら飛び上がって喜びたいほどの朗報ですが…。

今年はハンドボール界にとっては、とくに重要な 1 年であることは間違いありません。目指す最大のテーマはリオデジャネイロ五輪予選突破です。その中で気がかりは男子代表の“今後”です。昨年は屈辱的なシーズンでした。アジア選手権で世界選手権の出場権を逃しただけでなく過去最低の 9 位、さらには仁川アジア大会でもまた 9 位の惨敗でした。

津川強化本部長、松井監督の辞任は了承されたが、後任はこの原稿を書いている段階では決まっていません。一刻も早く新体制でスタートすることは喫緊のテーマです。

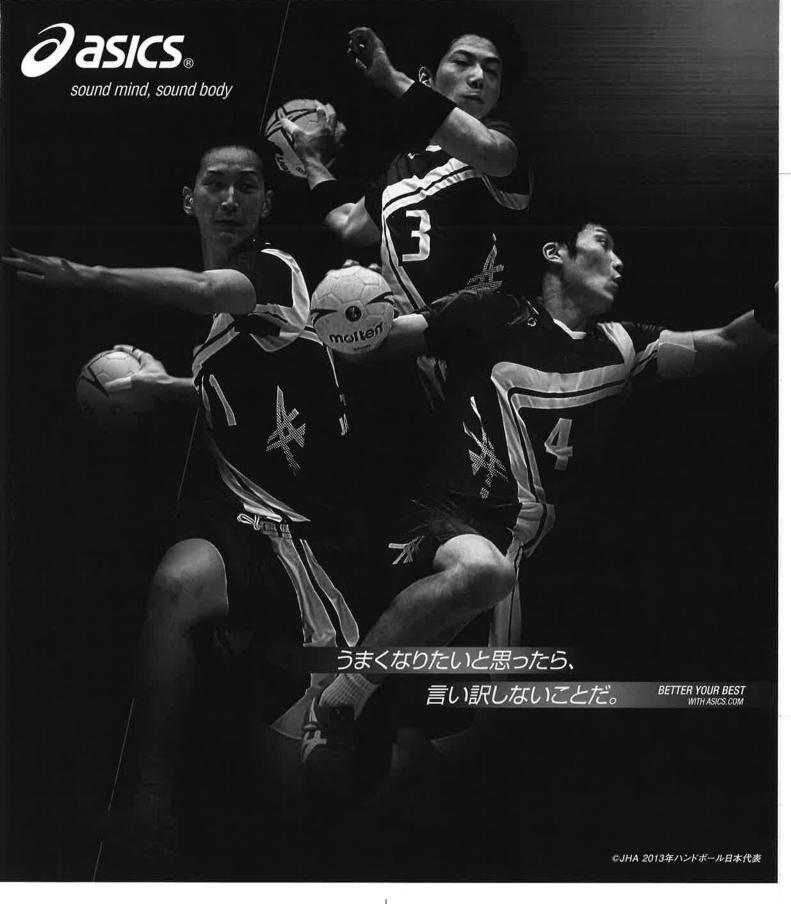
さて、一方の女子代表「おりひめジャパン」は、前回に続きアジア大会では準優勝でしたが、またも韓国の高い壁に阻まれました。このハードルをどのように乗り越えるか。打倒韓国が達成されなければ「リオへの道」は閉ざされたままでしかないでしょう。

時間の余裕がないことは、だれもが異論はないはず。男女ともとにかく“死に物狂い”の強い気持ちを切らさず日々の練習に取り組みレベルアップを図るしかありません。

仁川アジア大会で浮き彫りになった課題の修正につとめ、とにもかくにも「打倒・韓国」「打倒・中東」に焦点を絞った強化プランを立て、勝ち抜く戦術・戦略を選手・スタッフが共有、コートに立ちたいものです。

一方、サポート体制も欠かせません。日本協会はもとより各都道府県協会、さらにはファン・サポーターも巻き込んだバックアップ体制を早急に立ち上げたいものです。また、他方では財政面の援助も重要。海外遠征、国内合宿を積極的に支援する体制が必要です。選手・スタッフが心置きなく練習に打ち込める環境づくりがなくては、強化プランにも影響が心配されます。

日本リーグはもとよりすべての各種大会で代表をアピールする雰囲気を醸し出し、会場に詰めかけた観客が「ハンドボール」という競技の面白さ、楽しさ、激しさなどを存分に目の当たりにして興味を持ってもらうような演出づくりも大切ではないでしょうか。

輝く 2015 年にするためには、球界が持っている力をフル活用するくらいの強い気持ち―言い換えれば総力を結集して立ち向かっていく姿勢で「リオへの歩み」を確かなものにしていきたいと切に願っています。

# ハンドボール選手のための食育 1

## はじめに

2002年よりJHA医事専門委員会に関わらせていただき、約12年の歳月が経ちました。その頃に出会った選手の皆さんが、今では指導者として活躍されています。当時、栄養学を学んだばかりの私は、チームや選手の皆さんのためにどんなふうに栄養サポートをして行けば良いかとまどっていました。

日本ハンドボール界のために自分に出来ることを探し、チームや選手の皆さんと近い考えを持つため、日体協公認スポーツ指導者であるスポーツ栄養士（スポーツ栄養の知識やマネジメント技術を身に付けた管理栄養士）の資格取得に至りました。

近年、世界的にもスポーツ栄養の重要性への認識が高まり、日本でも様々な競技団体で選手の栄養サポートが行われています。しかしながら、ハンドボールにおいては、まだまだこれからという現状です。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2019年ハンドボール女子世界選手権（熊本）開催へ向け、今から出来ることは一つでも多く取り組んで行かなければなりません。JHA医事専門委員会でも、特に若い世代の食育に積極的に力を注いで参ります。その一環として、NTSで実施したアンケートおよびスポーツ栄養講座の内容をもとに、本誌上にて食育に関する連載を掲載する運びとなりました。

勝つために何ができるか。今日からスタートできることは何か。ハンドボールに関わる全ての方々と一緒に考え、実行して行きたいと思います。

第1回目は、「食育の大切さ」「朝食」をテーマにお伝えします。

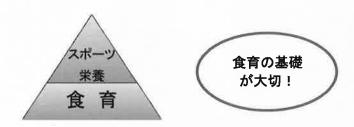
## 1．食育の大切さ

ハンドボールは激しいコンタクトプレーを伴い、消費するエネルギー量が多い競技です。トップ選手になるほどハードなトレーニングを長時間行います。そのため、必要なエネルギーが増大するため摂取すべき食事量が多くなりますが、トレーニングによる疲労から消化器官にも負担がかかり、食欲が低下してしまうこともしばしば見うけられます。

「食べることもトレーニングの一部である」と言われます。これは、食べることによってトレーニング後の疲労回復を促し、適切なエネルギーや栄養素を補給することで、勝つために必要な強い身体が作られていくためです。これら運動と栄養に休養を加えた3つのサイクルは、選手の身体作りに不可欠です。

・競技力向上
・エネルギー補給
・ケガの予防

・コンディション維持・調整
・疲労回復
・成長促進

選手が身に付けるべきスポーツ栄養の知識は、食育の基礎知識が土台となるため、食習慣の形成時期から正しい知識を身に付けることが大切です。選手が早い段階で食事の重要性を理解し、当たり前のこととして競技に活かしていけるよう、サポート体制を整えていくことも今後の課題の一つです。

## 2．朝食欠食状況

ハンドボール選手の食事を考える上でまず大前提となるのが「欠食をしていないこと」です。以前、NTSで実施したアンケートでも朝食欠食がみられました。「朝食を必ず食べている」と回答した選手でも、食事内容を確認すると不足がみられる可能性もあります。

厚生労働省が実施している国民健康・栄養調査の結果では、朝食欠食率のピークは男女ともに20代となっており、平成25年度は男性で30.0%、女性で25.4%でした。（この欠食とは、①「食事をしなかった場合」②「錠剤などによる栄養素の補給、栄養ドリンクのみの場合」③「菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べた場合」の3つの合計です。）

この結果から、10代で朝食習慣をきちんと形成することが大変重要であるとわかります。

JHA 医事専門委員会栄養部門公認スポーツ栄養士　村井 美保子

## 3．朝食のメリット&朝食欠食のデメリット

1日のスタートとして、朝食を食べることで血糖値や体温が上昇し、脳や内臓にも活動のスイッチが入ります。

朝食欠食の状態では前日の夕食からの空腹時間が長くなり、活動のためのエネルギーが不足し集中力や意欲が低下してしまいます。体温が上がらず、だるさや眠気を感じることも増え、勉強や作業効率が低下することが報告されています。

また空腹が続いた後、昼食をたくさん食べることで血糖値が急激に上がり、体脂肪がつきやすくなります。3回の食事（必要に応じて補食を加える）によって血糖値の変動をゆるやかに保つことが望ましく、身体作りにも有効であるといえます。

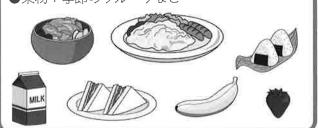
## 4．まとめ

トレーニングで疲労困憊した状態でもしっかり食べることができるか、海外遠征時にも食事量を落とさず食べることができるか。トップアスリートに求められることは、競技能力だけではありません。

3回の食事に加え補食を利用しても、必要なエネルギーや栄養素をバランスよく摂ることは難しいため、欠食をしてしまうということは選手として絶対に避けなければならないのです。

朝からしっかり食べることができる身体を作っておくことも、将来に向けて大切なことです。

トレーニングは朝食から始まっています。しっかり食べて、頭や身体をウォーミングアップさせて1日をスタートしましょう。ハンドボール選手は、欠食率0%を目指します。

●主食：ご飯、パン、麺類など
●主菜：肉、魚、卵、大豆製品などを使った料理
●副菜：野菜、海藻、きのこなどを使った料理（2品）
●乳製品：牛乳、ヨーグルト、チーズなど
●果物：季節のフルーツなど

### ◆ご指導にあたる先生方へ◆

「朝食をしっかり食べて来たか」「食事内容は偏っていないか」「体重管理はうまく出来ているか」など、折に触れ選手に食の大切さに関し言葉掛けをお願いします。できましたら、トレーニング計画に定期的な食事指導を取り入れていただければ心強いと思います。

また練習日誌等をつけている場合、トレーニング内容と併せて食事内容を記入すると身体作りに効果があります。せっかく良いトレーニングを行っても、身体を作る材料となる食事がおろそかになればその効果は半減してしまいます。トレーニングと食事は必ず1セットであることを大切にして頂き、ぜひ最大限に効果的な身体作りをお願いします。

なお、空腹状態でトレーニングを行うこと、およびトレーニング後の食事までに2時間以上空いてしまうこと（目安2時間以上）も身体作りにマイナスだと考えられています。運動後は速やかに食事をとり、状況に応じて補食の活用もお願いしたいと思います。

### ◆ご家庭の保護者の皆様へ◆

「時間がないから」「おなかが空いていないから」といった理由などで、朝食欠食を習慣化してしまう選手がいます。きちんと食べることもトレーニングです。朝食の時間を確保できるように、また遅い時間に夜食を食べないように、などの調整をしてあげてください。

そして、簡単な調理は本人ができるように、少しずつ自立を促してください。親元を離れた時、調理を全くできない選手は外食やコンビニのお弁当に頼るだけということも多く、どうしても食のバランスを崩しがちです。お忙しい毎日をお過ごしのことと存じますが、ぜひ包丁の使い方、野菜の切り方やゆで方など、調理の基本を教えてあげる時間をご家庭でももっていただければと思います。

clipart by illpop.com

### ●朝食のポイント●

まず、脳に栄養素を補給する「糖質」、体温を上昇させる働きをする「たんぱく質」、身体のエネルギー源となる「脂質」、睡眠中に失われた「水分」を補給すること。多くの食材を使って栄養価をアップさせ、ベストコンディションを手に入れよう！

# 2014NTS 中国ブロックトレーニング

運営委員長　森山　透

平成 26 年 8 月 9 日（土）から 11 日（月）の 3 日間で湧永満之記念体育館において、中学生・小学生・高校生の順で開催を予定しておりましたが、台風の接近に伴い運営委員長の田口さんとも相談をした結果、10 日に予定していた小学生のトレーニングを中止しました。ブロックトレーニングを楽しみにしてくれていた小学生には大変申し訳なかったと思います。中国ブロックの NTS トレーニングは、湧永製薬様の全面的な協力と、各カテゴリーの指導者の方々に NTS の趣旨をご理解いただき、忙しいスケジュールにもかかわらず開催出来ております。

今年度は高校生が男子 15 名、女子 15 名、中学生が男子 16 名、女子 15 名、指導者の参加数が 24 名、デモンストレーター 10 名の総勢 95 名が参加し東慶一技術委員長（山口県）を筆頭に 18 名のスタッフの指導と NTS 指導委員会より藤本元氏にも参加して頂き 2 日間のトレーニングが行われ、全日程を無事に終了することが出来ました。

活動内容として高校、中学のトレーニング内容は午前中に DF トレーニングを行ない、詰めの動作とコンタクト・タイトマークとセカンド DF の連動など、午後からは OF トレーニングを行い、ディフェンシブなゾーン DF に対する攻撃やセンターのプレッシャーからアウトサイドオフェンスなどの後に 15 分のゲームを 2 セットで終了しました。今年度から指導委員会の藤本氏による指導者向けの講習会も行なわれ、最新の情報や映像を見せて頂き、指導者にとっても良い機会になったと思います。中国地方では各カテゴリーにおいて全国レベルで活躍するチームも増えてきており、皆さんに協力して頂きながら一人でも多くのユース選手からナショナル選手が育つように本ブロックトレーニングを行っていきたいと思います。

# ＩＨＦニュースから

2015 年 1 月 15 日～2 月 1 日、カタールにて開催の男子世界選手権の参加チームを巡って不可解な動きが見られた。

アジアからの参加チームは、2014 年 2 月開催の男子アジア選手権にて、上位 3 チームが 2015 世界選手権に出場出来るとしていた（但し、2015 世界選手権開催国のカタールが 3 位以内に入った場合は、4 位も出場出来る）。大会の結果は、1 位：カタール、2 位：バーレーン、3 位：イラン、4 位：アラブ首長国連邦、5 位：韓国、6 位：サウジアラビア、7 位：クウェート、8 位：オマーン、9 位：日本、10 位：イラク、11 位：中国、12 位：ウズベキスタン、であり、上位の 4 カ国が出場権を得た。

しかしながら昨年 11 月、出場権を得たバーレーンとアラブ首長国連邦から IHF に対し突然に 2015 世界選手権出場辞退の申し入れがされ、国際ハンドボール連盟（IHF）は 11 月 21 日ヘアツォーゲンアウラッハ（ドイツ）で開いた定例理事会で、両国の棄権を明らかにするとともに代替国としてサウジアラビア（アジア）、アイスランド（ヨーロッパ）を決め、不参加の両国に各 10 万スイスフラン（約 1240 万円）の罰金を科した。

代替国の選定には、突然しかも異例の状況で混乱していたようではあるが、補充の候補をアジア、ヨーロッパ各 1 ヵ国とし、ヨーロッパ連盟（EHF）からは昨年 6 月に公表していた補欠順位 1）アイスランド、2）ハンガリー、3）セルビア を尊重、アイスランドに決まった。アジアからは、5 位の韓国を飛ばして 6 位のサウジアラビアに決まった。

アジア 2 カ国の不参加が、結果としてアジアの参加枠が一つ減少したことと、アジア選手権成績上位国が出場できなかったことには、明確な説明が無い。

# 参加報告（平成26年度文部科学省委託事業 第2回加盟団体連絡会議 兼 ドーピング研修会）

佐久間克彦

**主　催**；公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）
**日　時**；平成26年12月12日（金曜日）18時～20時30分
**会　場**；ベルサール飯田橋駅前　1階ホール
**参加者**；佐久間克彦、坂本静男、藤森徹、古谷野豊子、木本一成、斎藤和也、貝沼圭吾、原田悟

● **2015年新規定のポイント**：より明確な役割と責務が競技者、サポートスタッフ、各団体に求められる。競技者においては、1）アンチ・ドーピング規定について精通、遵守する　2）いつでも、検体の採取に応じること　3）摂取するものに対して全て、厳格責任　3）医療従事者に対して、治療等を受ける際の自分の責任を伝えること　4）過去10年間、アンチ・ドーピング規則違反になった情報をJADAと日本ハンドボール協会に開示　5）ドーピング・ケースに関する調査／捜査に、積極的に協力が求められます。また規則違反に対しては標準制裁期間が2年から4年と変更また規則違反時効が8年から10年となりました。サポートスタッフ、各団体に関しては　1）規則違反を援助、支援、隠し、企てること　2）規則違反者をサポートスタッフとして雇う等で、関係を持つことの2項目が追加されました。

● **2015年禁止表国際基準（2015年1月1日発効）のポイント**：マイナーな改訂であった。従来、治療目的使用の適用措置（TUE）が必要となることが多かった外科手術に関して明文化されました。禁止方法：〈M2．科学的および物理的操作〉静脈内注入および／また6時間あたりで50mlを超える静脈注射は禁止される。但し医療機関の受診過程（救急搬送中の処置、外来および入院中の処置を全て含む）、外科手術、または臨床的検査において正当に受ける静脈注入は除く。

● **2015年新規程に準拠した新しい情報伝達、教育ツール**

● **国内におけるアンチ・ドーピング活動**

ア）アンチ・ドーピング情報伝達、教育活動のアップデート
イ）ドーピング検査関連情報：2015年から日本アンチ・ドーピング規程により「20歳未満の者である競技者に対し、ドーピング検査の対象となる可能性があることについて、親権者及び競技者本人の書面による承諾を取り付けること」。すなわち、日本ハンドボール協会の責務で20歳未満の競技者親権者から同意書を取得することになります。
ウ）アスリートマネージメントシステム

● **ドーピング仲裁について**

ドーピング仲裁についての活動内容の報告：詳細はhttp://www.jsaa.jp/をご覧下さい。

禁止物質が競技者の検体から検出されアンチ・ドーピング規則違反が認定されると、1）個人の成績の自動失効　2）個人に対する制裁措置として、1回目の違反；原則として資格停止期間4年間　2回目の違反；原則違反を1回目として算出される資格停止期間の2倍の資格停止期間　3回目の違反；原則永久の資格停止となります。

規律パネルの処分に対する上訴は14日から21日以内となります。

この数年来アンチ・ドーピング活動を積極的に行ったことで、ハンドボールの現場においてはようやくアンチ・ドーピングに対する認識が浸透している様に実感します。しかしながら、ドーピングに関する色々な事が日々刻々と変化しています。今後も必要な情報を的確に伝達・提供できる様に医事委員会はアンチ・ドーピング特別委員会と一緒に活動を行いたいと考えております。しかしながら、2015年規程よりスポーツに関わる全ての人に「厳格責任と役割・責務」が求められています。ぜひ全ての選手・競技関係者は、JADAのホームページ（http://www.anti-doping.or.jp）の“やってみよう　Eラーニング REAL WINNER”からドーピング問題を学習できますので自己責任・防衛・研鑽の意味でも是非1度アクセスして下さい。

# 日本ハンドボール学会第２回コーチングセミナー開催報告

日本ハンドボール学会理事長　會田　宏

平成26年10月25日（土）、味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて、日本ハンドボール学会第2回コーチングセミナーを開催しました。テーマは、「早くて速いハンドボールを実現する速攻トレーニングの理論と実際」でした。講師は、松井幸嗣先生（日本代表男子チーム監督、日本体育大学男子チーム監督）、デモンストレーターは、東海大学男子ハンドボール部の皆さんでした。セミナーには29名の参加があり、終始、和やかな雰囲気で、早くて速いハンドボールの原則と応用について深く学ぶことができました。開催にご尽力いただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

ここからは、参加者の下拂（しもはらい）翔さん（筑波大学・研究生）が本コーチングセミナーの概要を報告します。

---

第２回コーチングセミナーの開催にあたり、まず日本ハンドボール学会会長・大西武三先生から開会の挨拶がありました。その後、講師・松井幸嗣先生のご紹介があり、講義と実技が行われました。その内容は以下の通りです。

### 1.「早くて速いハンドボールの実現に必要なスキル」（講義）

松井先生は「早くて速いハンドボール」を「速攻だけではなく、早い判断力と速いスピードで行われるハンドボール」と説明されました。また、その実現のために「高度な技術よりも基礎が重要で、練習では基礎にしっかり時間をかける」とのことでした。松井先生が監督を務めている日本体育大学では、練習時間の３分の２は速攻練習を行っており、その90％は体力・精神面にプレッシャーをかける反復練習で、残りの10％は疲労した中でどれだけ集中し、力を発揮するかを訓練すると話されていました。

### 2.「速攻トレーニングの実際」（実技）

#### （1）フットワーク

フットワークは、クロスステップや３歩ダッシュなどから始まりました。デモンストレーションをする東海大学の選手とコミュニケーションを取りながら、松井先生自ら笛を吹き、和やかな雰囲気の中進みました。徐々に難易度が上がっていき、ダッシュしながら笛の合図でローリングしたり、地面に８の字を描くようにステップを踏んだりするような細かい動きのあるものまで行われました。これらのフットワークの中では、常に「前を向くこと」と「緩急（強弱）をつけること」を注意していました。次に、ディフェンスのためのフットワークとして、１辺３m程度の正三角形を使って、サイドステップやクロスステップで、できるだけ速く移動する練習方法が紹介されました。このときにポイントとなるのは、方向転換するための準備動作を常に意識するということでした。松井先生は、「ハンドボールでは自分の体をコントロールすることが基本」であり、足の向きや踏切の足をどうするかは、時、場所、状況に応じて考えながら、選手自身が、リズム、テンポ、体の向き、足の向きを意識しながら決めると良いとまとめていました。

#### （2）パス

対人パスでは、片手（左右交互）でのキャッチの指示がありました。近い距離から徐々に距離を広げていきます。途中から、投げたらすぐにバックステップをするなど動きながらのパスに移っていきました。次にゴール方向に向きを変え、45度の位置に列び、2ポイントパスが行われました。ここではボールをもらう前にDFを外す動きを入れること、ジャンプ、ランニング、ステップなど様々なパスを入れること、投げたらすぐにバックステップをすることが要求されました。「良いパス」とはすぐにシュートにいけるパス、すぐ展開できるパスだと松井先生は言います。

次はクロスパスです。DFを１人おきます。このDFは常にゆっくりと少しずつ動きます。このDFが動くポイントに合わせてクロスで攻めるようにパスを出します。空間パス、バウンドパス、それらの使い分けの順に行われました。空間パスは相手に投げるイメージで、バウンドパスは置いてくるイメージで行うとうまくいくと説明されていました。

また三角パスでは、緩急の使い分け、パスの受け手の声、パスをもらう瞬間に３歩ダッシュすることがポイントに挙げられました。

#### （3）キーパースローからのワンマン速攻

３つ目は、ゴールキーパー（以下、GK）のボール出しの練習が行われました。両サイドに１列ずつならび、片方がGKにパスを出します。その時、もう片方はハーフまで対角に走り出します。GKは走っているコートプレーヤー（以下、CP）が内側を向いていたら全力でスローを出します。これがGKがスローを出す選択肢の１つ目です。CPがすでにGKに背を向けている状態で走っていたらGKはスローを出してはいけません。CPはセンターラインを越えたら体の向きを変えてそのままゴール方向へ走ります。その後、体が内側に向いたらGKはスローを全力で出します。これがGKがスローを出す選択肢の２つ目です。いずれも

CPがGKに対して内側を向いているときにGKはスローを出すというのがポイントです。CPはキャッチしたら3歩ダッシュして加速してシュートします。ここで、スローを受けたあとのドリブルについての注意がありました。スローは内側で受けますがその後のドリブルは外側でつくようにということです。外側にドリブルをついて、ドリブルスチールのリスクを軽減させようというのが狙いです。

次は山なりのスローです。ここでは、GKはCPを走らせるような山なりのパス（ノーバウンド）を出します。CPはそれをキャッチし、ドリブルなしでシュートまでもっていきます。

GKスローのバリエーションとしてバウンドパスでのスローの練習もありました。CPは9mラインの真ん中付近でゴール幅くらいに2ポイント取って列びます。片方がボールをGKに出したらスタートです。もう片方のCPはセンターラインまでダッシュします。センターラインまで到達したらターンしてGKからスローを受けます。GKはCPがターンするタイミングを見計らって、ワンバウンドするようにスローを出します。CPはキャッチしたら2回までのドリブルでシュートまでもっていきます。次の段階として、センターラインで2ポイントに列び、スタートします。CPは9mラインまで走り、ターンしてスローを受けます。その後はドリブルなしでシュートします。

**(4) ランパス**

実技の最後はランパスです。2人1組ボール1個で10mの間隔をおきます。①フリー、②もらう瞬間に3歩ダッシュ、③ジグザグ走（中に走ったときにパス）、④ジグザグ走（外に走ったときにパス）の順に行われました。いずれも緩急のメリハリをつけることをよく注意されていました。日本体育大学ではこの練習を30分～1時間半以上行うそうです。それだけの時間やっているとパスがひざより下にいくようになるなど、徐々に集中力がなくなっているのが目に見えるようになるそうです。ここでの集中力の有無が試合でのプレーに出ると松井先生は話していました。

次は3人1組で、①真ん中にいる人がジグザグ走しながらパス、②3クロス、③パラレルとクロスのミックス、④逆パス、⑤これらをフリーで組み合わせるなど、バリエーションを増やしながら行いました。ここで意識することは、エンドライン間際までプレーをしっかり継続することです。松井先生はエンドライン手前でプレーを終えるのではなく、もう1クロス、そしてもう1クロスとしつこく継続することを学生たちに求めていました。

最後に4人1組で、今までのバリエーションを組み合わせてシュートまで持っていく練習をしました。6－9m間を前後のフットワークをして、7mラインから松井先生がGKへボール出したらスタートします。前の練習と同じようにクロスやパラレルなどできる限り継続して9m付近までボールを運び、シュートします。ここで注意することはシュートを打ったらセンターラインまでバックステップすることです。戻りの意識付けまでしっかり行っていました。これで実践形式の講義は終わりました。

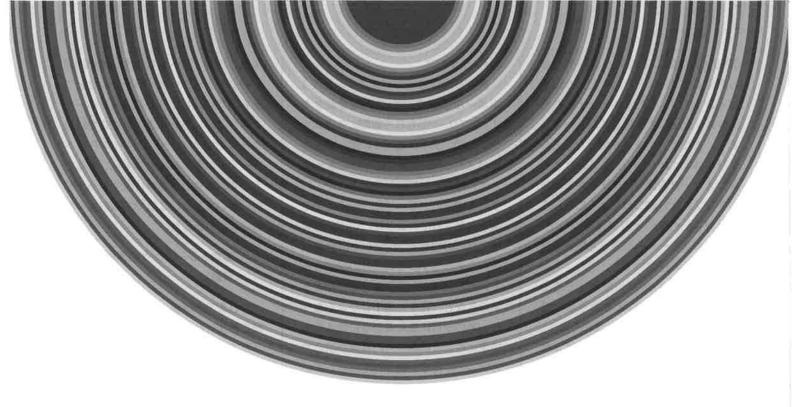
### 3.「速攻トレーニングの原則と応用」（質疑）

これまでの講義、実技を通しての質疑応答が行われました。

「たてに走ったほうが速いが、なぜクロスを多用するのか」に対しては、「速攻の局面ではDFが完全ではない場合が多い。そこでのマークチェンジを起こしたいから」と、また「パラレルとクロスの判断はどこで」に対しては、「クロスするタイミングが間に合わない場合は次の判断材料としてパラレルを使う」と答えていました。

最後に、日本ハンドボール学会理事長・會田宏先生から閉会の挨拶がありました。

今回のセミナーで紹介された内容は、日々のコーチングに生かせる内容でした。熱心に講習してくださった松井幸嗣先生、企画運営を行ってくださった田村修治先生をはじめとする東海大学の先生・大学院生の方々、東海大学男子ハンドボール部の皆さんに感謝いたします。

# スコアルーム①

## 高松宮記念杯男子第57回・女子第50回全日本学生ハンドボール選手権大会

**開催期日：2014年11月22日（土）～26日（水）**
**会場：岐阜市・岐阜メモリアルセンターほか**

### 【男子】

**▼１回戦**

早稲田大（関東） 32（19－8、13－15）23 立命館大（関西）
福岡大（九州） 22（11－3、11－10）13 国士舘大（関東）
福岡教育大（九州） 31（15－13、16－16）29 金沢大（北信越）
名城大（東海） 20（11－7、9－12）19 秋田大（東北）
大同大（東海） 30（16－8、14－15）23 筑波大（関東）
大阪経済大（関西） 39（19－8、20－15）23 仙台大（東北）
日本体育大（関東） 32（17－12、15－16）28 関西学院大（関西）
中部大（東海） 32（13－12、19－12）24 桐蔭横浜大（関東）
明治大（関東） 35（16－9、19－16）25 岐阜大（東海）
近畿大（関西） 27（14－13、13－8）21 東北福祉大（東北）
日本大（関東） 34（18－12、16－12）24 名桜大（九州）
中京大（東海） 31（16－13、15－11）24 中央大（関東）
東海大（関東） 33（15－7、18－9）16 高松大（中四国）
法政大（関東） 39（15－12、24－17）29 京都産業大（関西）
関西大（関西） 37（17－11、20－16）27 富士大（東北）
大阪体育大（関西） 44（17－5、27－13）18 函館大（北海道）

**▼２回戦**

早稲田大 24（11－13、13－7）20 福岡大
名城大 31（16－9、15－9）18 福岡教育大
大同大 22（13－9、9－12）21 大阪経済大
中部大 32（19－7、13－16）23 日本体育大
明治大 32（15－11、17－16）27 近畿大
日本大 27（11－15、12－8）26 中京大
（1－2 延長 3－1）
東海大 35（16－14、13－15）33 法政大
（3－2 延長 3－2）
大阪体育大 34（13－13、15－15）32 関西大
（3－0 延長 3－4）

**▼準々決勝**

早稲田大 31（18－12、13－8）20 名城大
中部大学 26（10－13、16－12）25 大同大
日本大 28（17－14、11－13）27 明治大
大阪体育大 31（13－17、18－10）27 東海大

**▼準決勝**

中部大 32（12－15、20－9）24 早稲田大
日本大 35（18－14、17－20）34 大阪体育大

**▼決　勝**

中部大 31（12－8、19－16）24 日本大

### 【女子】

**▼１回戦**

大阪体育大（関西） 30（12－8、18－9）17 早稲田大（関東）
福岡教育大（九州） 34（13－15、15－13）33 富士大（東北）
（3－4 延長 3－1）
立命館大（関西） 29（15－4、14－7）11 仙台大（東北）
武庫川女子大（関西） 21（11－7、6－10）18 日本体育大（関東）
（2－1 延長 2－0）
福岡大（九州） 44（29－9、15－10）19 富山国際大（北信越）
関西学院大（関西） 23（11－14、12－8）22 国際武道大（関東）
大同大（東海） 55（29－6、26－7）13 北教大岩見沢（北海道）
東京女子体育大（関東） 28（13－7、15－13）20 環太平洋大（中四国）
関西大（関西） 26（15－11、11－14）25 国士舘大（関東）
日本女子体育大（関東） 34（18－6、16－7）13 名桜大（九州）
東北福祉大（東北） 28（14－14、14－13）27 同志社大（関西）
筑波大（関東） 42（19－10、23－9）19 環太平洋大短期大部（中四国）
中京大（東海） 27（10－10、8－8）22 桐蔭横浜大（関東）
（4－2 延長 5－2）
東海学園大（東海） 36（19－4、17－6）10 金沢大（北信越）
愛媛大（中四国） 36（18－6、18－9）15 北星学園大（北海道）
大阪教育大（関西） 21（8－10、13－10）20 東海大（関東）

**▼２回戦**

大阪体育大 33（20－7、13－10）17 福岡教育大
武庫川女子大 27（14－6、13－10）16 立命館大
福岡大 20（13－5、7－12）17 関西学院大
東京女子体育大 20（6－6、14－10）16 大同大
関西大 25（15－11、10－11）22 日本女子体育大
筑波大 31（14－7、17－9）16 東北福祉大
中京大 27（15－13、12－10）23 東海学園大
大阪教育大 41（19－9、22－7）16 愛媛大

**▼準々決勝**

大阪体育大 38（22－5、16－11）16 武庫川女子大
東京女子体育大 28（13－7、15－8）15 福岡大
筑波大 30（14－11、16－11）22 関西大
大阪教育大 20（12－9、8－8）17 中京大

**▼準決勝**

大阪体育大 28（14－9、14－12）21 東京女子体育大
大阪教育大 19（9－10、10－7）17 筑波大

**▼決　勝**

大阪体育大 28（16－4、12－9）13 大阪教育大学

# スコアルーム②

## 第12回日本車椅子ハンドボール競技大会

**開催期日：2014年11月22日（土）～23日（日）**
**会場：徳島県鳴門市・大塚スポーツパークアミノバリューホール**

**▼Ａブロック**

宮城フェニックス 34－8 パッチワークワンズ
宮城フェニックス 15－14 APES－A
APES－A 20－7 パッチワークワンズ

**▼Ｂブロック**

ドリーマーズ 18－8 APES－α
ドリーマーズ 20－6 藍野大学TOPS－B
APES－α 19－17 藍野大学TOPS－B

**▼Ｃブロック**

大阪NRF 26－5 パッチワークドルフィン
大阪NRF 22－14 藍野大学TOPS－G
大阪NRF 23－11 京都伏見スパローズ
京都伏見スパローズ 20－11 藍野大学TOPS－G
京都伏見スパローズ 21－6 パッチワークドルフィン
藍野大学TOPS－G 18－9 パッチワークドルフィン

**▼９－１０位決定戦**

藍野大学TOPS－G 23－7 パッチワークドルフィン

**▼７－８位決定戦**

藍野大学TOPS－B 17－13 パッチワークワンズ

**▼５－６位決定戦**

大阪NRF 13－7 京都伏見スパローズ

**▼準決勝**

宮城フェニックス 25－10 APES－α
ドリーマーズ 17－14 APES－A

**▼３位決定戦**

APES－A 17（11－7、6－6）13 APES－α

**▼決　勝**

宮城フェニックス 17（7－6、6－7）16 ドリーマーズ
（1－0、3－3）

**▼フレンドリー決勝**

岩出ハンドボール教室 13－7 ガッチャンズ

## ▶日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」回覧簿◀

全国のクラブ・部活動でハンドボールをプレーしている皆さん！　日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」(本誌）をぜひ仲間と共に読んでみてください。代表監督・選手のコメント、各種大会の結果報告、海外情報など、きっと皆さんのハンドボールライフに役に立つ情報が掲載されているはずです！

| 閲覧者 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |

## がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」11・12月入会・継続会員

【宮城】千田文彦【栃木】坂本定芳【群馬】河内弘美【埼玉】長田健吾、岡村昭二、星野妙子【千葉】山田友美、相浦美波【東京】橋本　進、杉山　茂、大熊昌巳、岡前義春、佐藤俊男、佐藤映子、野島康嗣【神奈川】福井俊彦、田原やよい、大井壮信、生熊健二、加古川範子、白井香代子【長野】須坂　豊、須坂美喜【新潟】飯田和弘【富山】尾上朋子、吉水慎一【福井】佐々木輝明、土肥正彦、角谷喜代重【静岡】青木美佳【愛知】佐藤壮一郎、荒川健児、新井こずえ、加藤恵美子、城山秀美、野田　清、小林　勇、宮地陽子、坪井夕香、山本智子、舟橋由紀、山田美佐子、内田元規、岡田洋典【三重】細野秀男【滋賀】谷口俊夫、高島典克【京都】守本幸三郎【大阪】西野誠、折橋裕智、山本伸二、赤星　明【兵庫】川原崎雅彦【鳥取】足立逸郎【岡山】奥埜美峰、奥埜啓子【広島】白石　隆【熊本】藤田八郎【鹿児島】今里了次

## 【2月・3月の行事予定】

【会議】…………………………………………………………

2月14日(土)　第2回理事会

2月15日(日)　第2回全国理事会

3月14日(土)　常務理事会

【大会】…………………………………………………………

2月6日(金)～8日(日)
全日本社会人チャレンジ2015…………………（岐阜市）

2月21日(土)～22日(日)
トップコーチセミナー2015
（東京都・味の素ナショナルトレーニングセンター）

2月28日(土)～3月1日(日)
第39回日本リーグプレーオフ（女子）(石川県・小松市)

3月14日(土)～22日(日)予定
第15回女子アジア選手権(インドネシア・ジャカルタ)

3月21日(土)～22日(日)
第39回日本リーグプレーオフ(男子)(東京都・駒沢体育館)

3月25日(水)～29日(日)
第10回春の全国中学生選手権大会…(富山県・氷見市)

3月25日(土)～30日(月)
第38回全国高校選抜大会…(愛知県・豊田市、岡崎市)

## HAND BALL CONTENTS Jan.Feb.


総力をあげた、実行の年　川上憲太……………………1
第66回全日本総合選手権大会
大会を終えて：矢野哲二……………………………2
男子優勝：大崎電気　監督・岩本真典………………4
女子優勝：オムロン　監督・黄　慶泳
主将・藤井紫緒………………5
全日本総合から全日本選手権へ………………………8
男子第57回・女子第50回全日本学生選手権大会
総評：杉森弘幸…………………………………… 10
男子優勝：中部大学　監督・蒲生晴明…………… 11
女子優勝：大阪体育大学　主将・大山真奈……… 12
初出場校の抱負：北海道教育大学岩見沢校／
名桜大学／関西学院大学／東海学園大学／
国際武道大学……………………………………… 14
第4回アジアビーチゲームズ　ハンドボール競技
男子：監督・氷海正行……………………………… 18
女子：監督・大原康昇……………………………… 19
第12回日本車椅子ハンドボール競技大会 ………… 21
リオオリンピック、世界選手権、東京オリンピックに通ずるロードマップを目標に始動した日本代表チームを激励する会……………………………………… 22
女子U-16日韓スポーツ交流（派遣・受入） ……… 24
監督・尾石智洋、コーチ・麻生　薫、主将・相澤菜月
フリースロー：輝く2015年に…　早川文司 ……… 26
ハンドボール選手のための食育1　村井美保子…… 28
2014NTS中国ブロックトレーニング：森山　透／
IHFニュースから ………………………………… 30
医事委員会だより：参加報告　佐久間克彦………… 31
日本ハンドボール学会第2回コーチングセミナー
開催報告　會田　宏……………………………… 32
スコアールーム：
男子第57回・女子第50回全日本学生選手権大会／
第12回日本車椅子ハンドボール競技大会 ………… 35

# For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。

株式会社モルテン　東京都墨田区横川五丁目5-7

www.molten.co.jp

（公財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第五四九号
平成二十七年一月二十六日印刷
平成二十七年二月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間 三三〇〇円